



別府市水道  
**100年誌**  
100th anniversary



**別府市水道局**  
Beppu Municipal Waterworks Bureau



## 水

---

私たちの生活に欠かすことができない「水」

現在、日本に住む私たちは、感じるのでしょうか

水の「おいしさ」を

水の「安全性」を

さらにその「水」が

蛇口から出るのが『あたりまえではない』こと

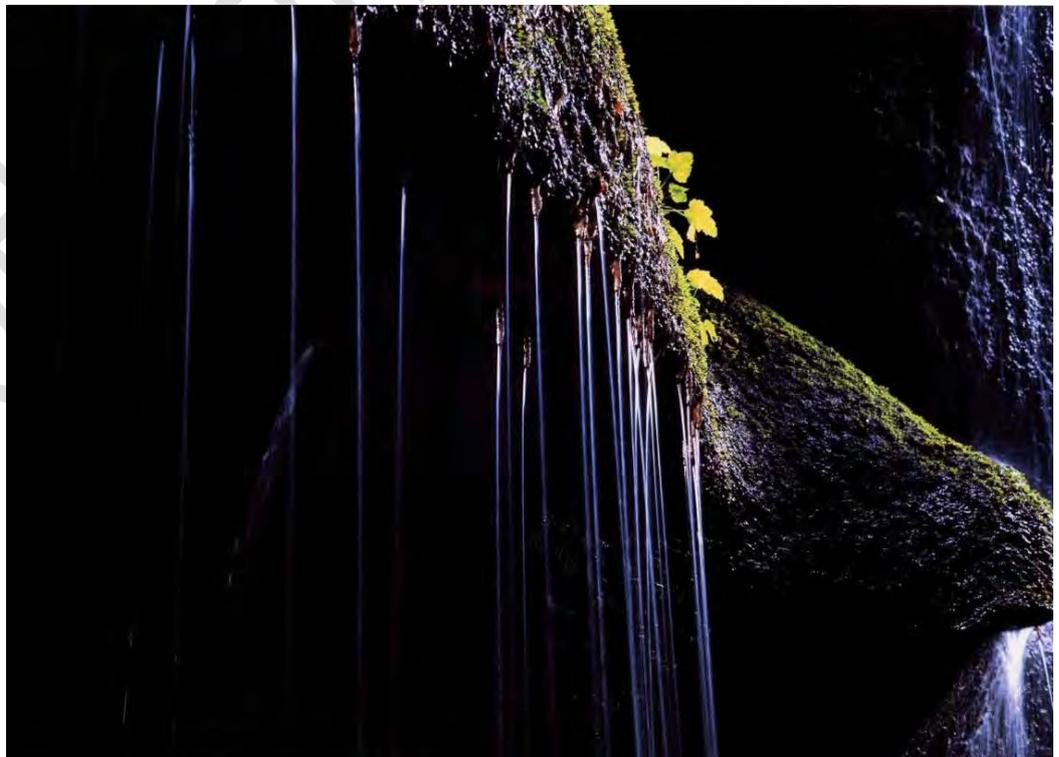
忘れてはいませんか？

つい100年前の日本では、この『あたりまえ』を求めました

現在であっても、途上国では求めています

先人達から引き継いだこの『あたりまえ』を永久的に続けていく

これが、私たち職員の使命であり、誇りです



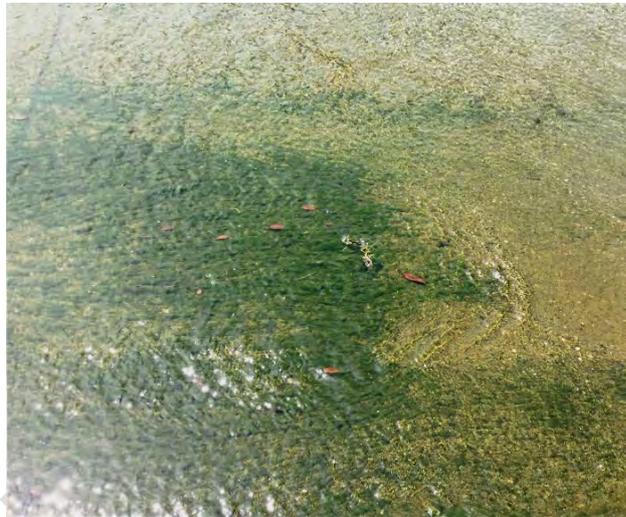
別府市水道100周年記念 写真コンテスト 最優秀賞

タイトル「悠久の音（ね）」 撮影者：平野 俊久 さん



別府市水道100周年記念 写真コンテスト 優秀賞

タイトル「はじめての田植え」 撮影者：牧 ツヤ子 さん



別府市水道100周年記念 写真コンテスト 優秀賞

タイトル「川のせせらぎ、自然の水の恵み」 撮影者：尾崎 美佳 さん



別府市水道100周年記念 写真コンテスト 優秀賞

タイトル「命をはぐくむ」 撮影者：平野 俊久 さん



別府市水道100周年記念 写真コンテスト 特別賞

タイトル「白糸の滝」 撮影者：後藤 正勝 さん



鉄輪の湯けむり



別府国際観光港第4埠頭と上人ヶ浜公園



# もくじ

## はじめに 1

水道100周年に寄せて 1

水道100周年を迎えて 2

## 別府市のあゆみ 3

## 別府市水道のあゆみ 5

創設 5

第1期 拡張事業 7

亀川町・朝日村水道の合併 9

第2期 拡張事業 9

占領軍専用水道の建設 10

第3期 拡張事業 11

占領軍専用水道の無償譲与 11

第4期 拡張事業 12

第5期 拡張事業 13

特集 新聞で振り返る① 15

第6期 拡張事業 19

高地区配水施設整備 25

特集 新聞で振り返る② 27

第7期 拡張事業（第1次変更を含む） 31

第7期 拡張事業 第2次変更 33

温水水系送配水施設整備事業 34

8大事業 34

第7期 拡張事業 第3次変更 37

第8期 拡張事業 39

水道施設の概要 39

朝見水系 39

扇山水系 41

湯山水系 41

温水水系 43

タタラ水系 43

寒原水系 44

扇山第1水系 44

小坂水系 45

大石原水系 45

天間水系 46

城島水系 46

別府市水道施設概要図 47

水系別給水区域図 49

## 水道年表 51

水道事業の動き 51

歴代水道企業管理者 53



## はじめに

# 水道100周年に寄せて

別府市長 長野 恭紘

別府市の水道事業は、大正6(1917)年4月に給水を始めて以来、今年で100周年という節目の年を迎えることができました。

顧みますと、創設当時は、鮎返 溪谷及び乙原川を水源とし、計画給水人口は、2万5,000人、計画1日最大給水量は2,800m<sup>3</sup>でした。当時はまだ市制は施行されておらず、町制時代の大字別府及び大字浜脇の市街地を中心に給水がスタートしました。

大正13(1924)年に別府市制が誕生、人口も年々増加し、配水能力に不足が生じるようになったことを受け、大正15(1926)年に第1期拡張事業に着手しました。

以来7期にわたる拡張事業を進め、昭和50(1975)年には計画給水人口14万人、計画1日最大給水量を9万4,000m<sup>3</sup>と大幅に増加しましたがこれをピークに、平成15(2003)年の変更認可で計画給水人口12万6,800人、計画1日最大給水量を7万1,500m<sup>3</sup>に見直しました。



また、平成29(2017)年4月には、第8期拡張事業として簡易水道事業を水道事業に統合し、計画給水人口11万8,100人、計画1日最大給水量を6万100m<sup>3</sup>としています。

これら拡張事業において、とりわけ昭和39(1964)年に着手した第6期拡張事業は、取水を大分川中流域とし、別府まで約21kmの導水路を経由し、取水するという今では到底想像もつかない画期的な事業であり、別府市における「安定給水」に多大な功績を残した事業といえます。

水道は、市民生活と産業活動に欠かせない重要なライフラインの一つであり、平常時はもとより災害時においても継続的に続けることが水道事業者としての最大の責務と考えています。

今後とも「安心安全な水を、いつまでもお客さまのもとへ」を理念として、更に努力してまいります。

結びに、100年の歴史に輝かしい足跡を残された先人達に改めて深く敬意を表すとともに、市民の皆さまをはじめ関係各位の御理解と御支援に心より感謝申し上げます。



## はじめに

本年、100周年を迎えるにあたって「安全な水道を 次の100年へ ~届け、未来へのおくりもの~」をキャッチフレーズに様々な記念事業を実施し、100年の歴史や現在の姿など広く周知に努めているところです。

水道事業創設から大正・昭和・平成にわたり、一世紀もの間安全で安心な飲料水の供給が行われてきたのは多くの先輩諸氏の知恵と努力、そして、水道にかけてこられた情熱の賜物であり、心から敬意を表します。

これまで引き継がれてきた知識・経験・技術をはじめ、多くの本市水道の宝を更に発展させ、未来に向かって新たな一歩を踏み出し、次世代に引き継いでいきたいと考えています。

これからも市民の皆さまはもとより、国際観光温泉文化都市「べっぷ」にお越しのお客さまに、安全でおいしい水を絶えることなくお届けできるよう、より一層努力してまいりますので、御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



## 水道100周年を迎えて

別府市水道企業管理者 中野 義幸

別府市の水道事業は、大正6(1917)年4月に布設され、近代水道としては全国的に見ても「3番目(大分県内では最初)」と早い時期に給水が開始されました。

市制の発展や市民生活の向上に伴う水需要の増大に対応して、より多くの方々に安全で安心な水道水の安定供給のため、7期にわたる拡張事業を進めてまいりました。

給水開始から100年を迎えた現在、水道事業を取り巻く社会情勢は厳しさを増しており、少子高齢化や景気の低迷、節水器具の普及などにより、水需要は年々減少しており、さらには、高度経済成長期に建設された施設の老朽化対策や耐震化など、厳しい経営環境にあります。また、大量退職に伴う技術の継承も大きな課題となっています。





# 別府市のあゆみ

## 湯治場から温泉町へ

明治初年の別府は、片田舎の湯治場であり、農漁村でした。明治3(1870)年に起工された別府築港が翌年完成すると、海上交通が活発化しました。明治6年、大阪開商社が大坂・別府航路を開設、これを受けて別府会社や多くの船会社が設立され、瀬戸内海水運が盛んとなり、遠く四国・中国・関西地方からの入湯客が訪れ始めました。

大分県成立(明治4(1871)年)直後の明治5年、県費で浜脇温泉・不老泉を、明治7年には紙屋温泉などの公衆温泉を改築し、これらを中心に旅館街が形成され始め、さらに、明治12年の竹瓦温泉の新設は、地域の発展を促しました。



竹瓦温泉【写真：大正14(1925)年頃】 別府市立図書館 所蔵

道路の整備と明治33(1900)年の別大電車の開通、海運など交通機関の発達とともに、温泉の掘削技術も進歩し、内湯をもつ旅館が増加しました。

明治39(1906)年、別府・浜脇両町合併による「新」別府町の発足は、温泉行政を確立させ、明治10年頃の入湯客は、年間2万人程度でしたが、明治44年には54万人まで増加しました。



別府市 全景【写真：昭和2(1927)年頃】 別府市立図書館 所蔵

## 近代都市への出発

別府町の人口は、日露戦争(1904-1905年)後増加しました。さらに増加することが予測されたため、明治42(1909)年1月、市区改正を町会に提案し、可決されました。これは、大分県内での都市計画の先駆けといわれています。



別府町 全景【写真：明治42(1909)年頃】 別府市立図書館 所蔵



別府町役場 落成式【写真：明治43(1910)年9月30日】 別府市立図書館 所蔵

この市区改正事業と同時に耕地整理にも着手し、のちの町長・市長にも受け継がれ、18年の歳月を費やして昭和3(1928)年9月にしゅん工しました。

別府市の道路網が基盤目状に整然とした形態を保っているのは、その成果であります。

この時に上水道整備や公園建設も並行して進められ、温泉観光保養都市としての基盤が整備されたのです。

# 別府市のあゆみ

## 別府市の誕生

第1次世界大戦（1914–1918年）時の好況を反映して、入湯客も増大しました。大正9（1920）年、大阪商船株式会社（現：関西汽船）の別府棧橋（現：楠港）が完成し、1,700トン級の大型船の接岸が可能となりました。

大正12（1923）年、日豊本線が全通すると、阪神航路は週6回出航で対抗するなど、別府温泉は、観光・保養地としてさらに発展しました。



流川通り【写真：大正12（1923）年頃】 別府市立図書館 所蔵

大正13（1924）年4月1日、別府町は市制を施行しました。人口3万6,276人、明治15（1882）年の時の6倍となりました。



別府市 全景【写真：大正14（1925）年頃】 別府市立図書館 所蔵



別府市 全景【写真：昭和11（1936）年頃】 別府市立図書館 所蔵

昭和10（1935）年9月4日、別府市は石垣村・朝日村・亀川町と合併し、人口5万6,968人、名実ともに「東洋一、理想の大温泉街」を形成し、現、別府市域の基盤が、概ね確定しました。

### 別府観光の先駆者 “油屋 熊八”

観光面で別府を発展させた民間人のうち、最大の功労者は油屋 熊八といわれています。

彼は、愛媛県宇和島市に生まれ、明治44（1911）年、亀の井旅館（現：亀の井ホテル）を開業しました。優れたアイデアマンで、自称“別府の外務大臣”として、私財を投じて「別府」を内外に宣伝しました。地形図の温泉記号「♨」をフル活用したのも彼です。大正14（1925）年、富士山頂に「山は富士 海は瀬戸内 湯は別府」の標柱を立てたことは有名です。

昭和2（1927）年、自動車4台を購入し、現在でも観光で有名な“地獄めぐり”を一円でまわられるようにしました。翌年には亀の井自動車（株）（現：亀の井バス（株））を設立、我が国最初のバスガイドを地獄めぐりに導入して、七五調の美文解説を行い、観光バスの草分けでもありました。



地獄めぐり観光バス【写真：昭和6（1931）年頃】 別府市立図書館 所蔵

彼の信念は「楽に来てもらい、気持ちよく遇する」ことで、外国人にも同様だったそうです。

このあたたかいもてなしは、別府を再訪する気持ちを起こさせるには十分であり、今もなお引き継がれています。



# 別府市水道のあゆみ

## 創 設

大正3(1914)年7月26日～大正6(1917)年3月31日

計画給水区域	大字別府・大字浜脇の市街地
計画給水人口	25,000人
計画1人1日最大給水量	112ℓ
計画1日最大給水量	2,800m <sup>3</sup>
計画事業費	373千円
事業認可	大正2(1913)年7月1日

## 水道完成までは苦難の連続

別府市の水道は、大正6(1917)年3月、待望の完成を迎えたのですが、この計画が立てられたのはさらに遡ること11年前の明治39(1906)年のことでした。

当時の日名子 太郎町長(在職 明治39年7月～明治43年7月)は明治39年8月、水道施設の企画を町会に諮り、8名の調査委員を選出し、水道布設計画書を作成するように指示を行いました。完成にはいたりませんでした。そこで、明治41年4月、水道委員規程を施行し、新たに10名を選定、その方針を決定しました。同年11月には、当時の助役と水道委員の2名を上水道の先進地であった東京・熱海・大阪・神戸・岡山・下関へ派遣し、視察などを行いました。また、翌年1月には、病氣療養のため別府を訪れていた朝鮮京城水道揚水副工事に水道布設計画書の作成を委託しました。約3ヶ月に及ぶ現地調査などを行った結果、自然流下方式による水道布設計画の概要はできましたが、完成にはいたりませんでした。その後一旦中断はしたものの、明治44年4月、吉田 嘉一郎町長(在職 明治43年8月～大正3年8月)は助役と水道委員とともに、門司・下関を訪れ視察などを行い、ようやく水道布設計画書が完成しました。

明治44(1911)年5月、吉田町長は計画案の町会の議決を得て6月には計画書を内務省(現:厚生労働省)に、7月には費用の補助申請を内務省と大分県に提出しました。計画書は一部不備があったため、変更修正を行い同年9月、再度提出しました。ところが、同年11月に補助申請は認められない旨の通知がありました。その後、請願書の提出や補助額などを見直しながら2回にわたり補助申請を行いました。許可が下りることはありませんでした。業を煮やした吉田町長は、大正2(1913)年5月に上京し、内務省・大蔵省(現:財務省)をはじめ関係官庁に別府の特殊性と

水道の必要性を陳情しました。しかし、大蔵省は国内外の金融市場が極度の不況であることなどを理由に国の補助には応じなかったものの、両者の高等官の協議の結果、特例で内規を追加することで何とか同意を得ることができました。

その結果、ついに大正2(1913)年7月1日付けで認可を得ることができました。



起工式(朝見浄水場敷地内)【写真:大正3(1914)年7月】

大正3(1914)年7月26日、県議会議員、新聞社、町会議員、地元関係者など約200名を招待し、朝見浄水場内で起工式を挙行しました。

## 創設時の功労者

創設時の功労者は、国・県に粘り強く水道の必要性を訴え続けた両町長であると言われています。特に、日名子町長は町長を退任後、今度は助役として吉田町長を支え、以前にも増して水道完成に向け、尽力されたとのことでした。



**日名子 太郎**  
ひめご たろう  
(1865～1940年 享年76歳)  
別府市出身。初代別府町長。別府小学校教員になるも、翌年家業を継ぐ。明治39年7月から町長に着任。温泉事務規程などを施行し、温泉行政の基礎を築く。水道布設計画に着手。

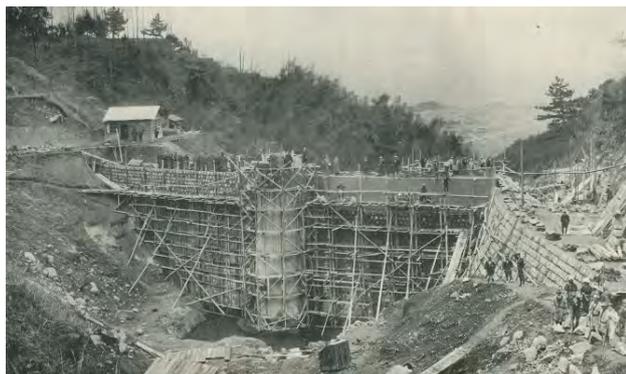


**吉田 嘉一郎**  
よしだ かいちろう  
(1859～1945年 享年85歳)  
臼杵市出身。第2代別府町長。警察官僚として活躍中、大分県知事に推挙され、無給の名譽職として町長に着任。大分みらい信用金庫の創立者。水道実施計画の立案者。

# 別府市水道のあゆみ

## 工事の遅延

当初の計画では、工事は大正4(1915)年3月までとしていましたが、認可を得られるまでに時間を要したこと、不況の時期に遭遇したこと、戦争が始まり資金調達があまくいかず主要材料の供給が予想に反して遅れたため工事が進捗しないことなどを理由に、大正5年3月まで延長しました。



乙原貯水池(ダム) 建設工事中【写真：大正5(1916)年頃】

その後、工事は順調に進み、浄水池建設工事と配管布設工事は大正5(1916)年3月までにしゅん工したものの、乙原貯水池については、設計変更や土地の買収などに時間を要し、堰堤工事に着手できるようになったのは大正4年12月のことでした。

残り3ヶ月でのしゅん工を断念し、大正6年3月までさらに1年間延長することになりました。

大正6(1917)年3月、大分県の監査を受け、ようやく水道布設工事のしゅん工式を迎えることができました。



朝見浄水場 完成【写真：大正6(1917)年3月頃】

## 事業の概要

乙原川(60%)と鮎返川(40%)を水源として、乙原水源には夏季の断水に備え、2週間分の飲料水を貯蔵することができる貯水池を設けて、鮎返溪流には滝壺を利用した集合池を建設しました。これらを朝見浄水場に送水し、緩速ろ過池(3池)で浄水、配水池(2池)を經由し、自然流下方式で町内各方面へ配水できるよう、配水管を布設しました。また、同時に私設消火栓も設置しました。



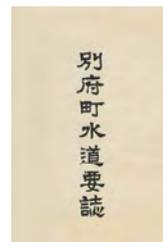
別府町水道 貯水池及び浄水池 平面図

### 別府町水道の必要性

都市を経営する上で最も重要なのは、豊富で上質な水を得ることである。我が別府町は、九州の東海岸の中央、瀬戸内海の西端に位置し、天然の地勢と山や海の景勝に優れ、鉄道や航路の便も良く、いたるところ温泉があり、他と比べることができない保養地として観光客の往来が絶えることがない。今では観光客が益々増加し、年間延べ数万人に及ぶほどである。

しかし本町は、地下温泉は豊富であるが、飲料に適した水を得る場所が極端に少ない。一部住民の共同経営で水道施設があるものの、本町の状態は十分なものではない。雨が降れば濁ってしまい飲用には適さず、夏という最も水が必要な時期には水不足を訴え、公衆衛生上においては観光客に不安を与えるだろう。また、頻りに観光客が往来するようになって、疫病の蔓延を招く恐れがあり、その損害は計り知れない。

したがって、本町に上水道を敷設し、良好な飲料水を供給し、疫病の発生や蔓延するのを予防する。また、消防用としても利用して、生命・財産を守り、本町が益々世界的楽園になることを期待するのは、町民としては当然であるし、急務な課題である。 ～略～



別府町水道要誌【大正6(1917)年3月】から抜粋



# 別府市水道のあゆみ

## 第1期 拡張事業

大正15(1926)年2月6日～昭和2(1927)年1月3日

計画給水区域 創設計画と同じ

計画給水人口 75,000人

計画1人1日最大給水量 167ℓ

計画1日最大給水量 12,500m<sup>3</sup>

計画事業費 469千円

事業認可 大正14(1925)年7月31日

### 別府市制に伴い人口増加

大正6(1917)年の水道完成から数年が経過し、別府町の人口は増え続け、水需要は日を追うごとに増加し、大正10年頃から給水不足を訴えるようになりました。

また、大正13(1924)年4月1日、市制が施行されると人口が益々増加し、給水不足が深刻化するようになりました。

そこで、九州帝国大学(現:九州大学)教授を顧問に招き、大正14(1925)年から3カ年の継続事業として人口7万5,000人まで給水することができる『第1期 拡張工事』計画を策定し、大正14年7月に認可を受け、着工しました。



別府市水道小誌【昭和2(1927)年11月】



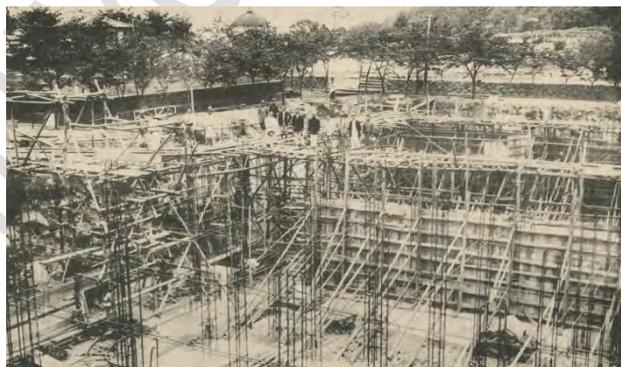
乙原貯水池(ダム)【写真:昭和2(1927)年頃】

### 工事は順調そのもの

大正15(1926)年2月6日に起工式を挙行了しました。工事は順調に進み、昭和2(1927)年6月12日、水需要が最も増える夏を前に未完成ではありましたが仮の通水式を行い、同年11月にはしゅん工式を挙行了しました。



ろ過池 建設工事中【写真:大正15(1926)年頃】



配水池 建設工事中【写真:大正15(1926)年頃】



配水管 布設工事中【写真:大正15(1926)年頃】

工期を約半年も短縮できたのは大変喜ばしいことであったと「別府市水道小誌」にも記されています。

# 別府市水道のあゆみ

## 事業の概要

水源や貯水方法は創設時と変わらないものの、貯水池の根元から二股にして従来の導水管に沿う形で新たに導水管を布設し、浄水池に引き込みました。

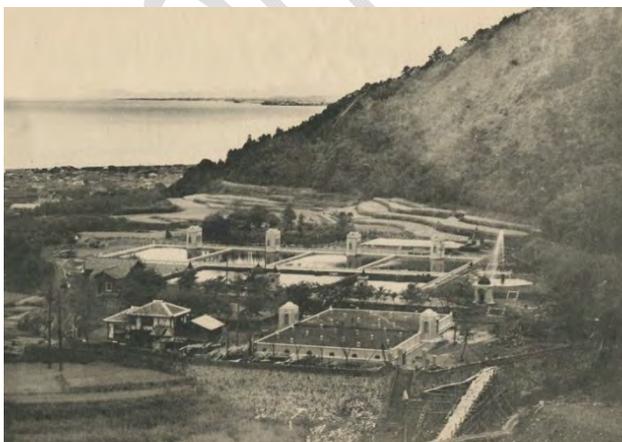
また、不足の事態を想定し、予備の取入口（堰き止めた水が何らかの故障のため使えない場合、放水路から直接導水管に送り込む予備設備）も設けました。



別府市水道 送水並びに配水本管 布設図

浄水場には、新たに緩速ろ過池を4池（3→7池）、配水池を2池（2→4池）増設し、第二集合并室、量水池、量水室などを設置しました。

現在では存在しませんが、浄水場内には噴水も作られ、乙原ダムとの高低差を利用した自噴式で、デザインは別府市水道事務所（現：水道局）の徽章でした。



朝見浄水場 全景【写真：昭和2(1927)年頃】



朝見浄水場内 噴水【写真：昭和5(1930)年頃】 別府市立図書館 所蔵

## 有形文化財に登録

この時に建設された配水池、配水池南・北出入口、第二集合并室、量水室は、現在も存在しており、平成9(1997)年9月3日には国の有形文化財（建造物）に登録されました。



配水池(44-0013)、南出入口(44-0015)、北出入口(44-0014)  
【写真：昭和2(1927)年頃】



量水室(44-0016)  
【写真：昭和2(1927)年頃】



第二集合并室(44-0012)  
【写真：平成9(1997)年頃】



# 別府市水道のあゆみ

## 亀川町・朝日村水道の合併

昭和10(1935)年9月4日、亀川町・朝日村・石垣村の別府市合併に伴って、亀川町・朝日村の水道施設を併合、管理することになりました。



市域拡大状況図 「別府の風土と人のあゆみ」 別府市立図書館 所蔵

両施設は、湯山地区の湧水を水源としていました。

### 亀川町水道

計画給水区域 野田・内竈を除く町内

計画給水人口 6,500人

計画1人1日最大給水量 139ℓ

### 朝日村水道

計画給水区域 鉄輪地区

計画給水人口 2,400人

計画1人1日最大給水量 139ℓ



朝日配水池【写真：年代不明】

## 第2期 拡張事業

昭和17(1942)年1月19日～昭和22(1947)年3月31日

計画給水区域 旧石垣村の一部を拡張

計画給水人口 85,000人

計画1人1日最大給水量 180ℓ

計画1日最大給水量 15,300m<sup>3</sup>

計画事業費 1,578千円

事業認可 昭和16(1941)年8月4日

## 太平洋戦争により工事が遅延

昭和10(1935)年に亀川町・朝日村・石垣村の1町2村を別府市に合併しました。そのうち、亀川町・朝日村には水道施設があったものの、石垣村にはありませんでした。そこで、合併条件でもあった旧石垣村へ給水するため、昭和12年に買収した亀川町の<sup>湯くみ</sup>温水湧水を水源として、昭和16年8月に認可を受け、着工しました。

拡張給水区域 旧石垣村の一部

計画給水人口 10,000人

計画一人1日最大給水量 167ℓ

しかし、太平洋戦争(1941-1945年)により水道用資材の入手は困難を極め、工事を一時中断するなど、計画より大幅に遅延しました。戦後、旧市街地の給水不足を補うように計画の一部を変更して、完成しました。



「別府市水道 第2回拡張小誌」 別府市立図書館 所蔵

## 事業の概要

亀川町の<sup>湯くみ</sup>温水水源地の湧出口・水源地に外部汚染を防ぐための上家を建設し、その隣接地には<sup>湯くみ</sup>量水池・<sup>湯くみ</sup>吸水井・ポンプ室を建設しました。

## 別府市水道のあゆみ

また、春木川右岸に配水池（500m<sup>3</sup>）を建設し、<sup>あゆみ</sup>温水からポンプにより送水しました。配水池からは、自然流下により配水し、弓ヶ浜付近の既設150mmの配水管に連絡して、水の停滞を防ぎ、相互給水ができるようにしました。



春木川配水池【写真：年代不明】

### 占領軍専用水道の建設

昭和20(1945)年8月15日の太平洋戦争の終結に伴い、別府市にもアメリカ軍が昭和21年12月に進駐することが決定し、同年6月から野口原（現：別府公園付近）に宿舍や諸施設を建設することになりました。



キャンプ チッカマウガ 「別府と占領軍」 別府市立図書館 所蔵

その給水対策として、当時の別府市の水源である<sup>あゆみ</sup>鮎返川上流に高さ2.4mのダムを築造し、あわせて浄水・配水施設を整備することとなり、昭和21年(1946)8月から工事に着手しました。

計画給水区域 上原・野口原の宿舍、兵舎

計画1人1日最大給水量 1,000ℓ

計画1日最大給水量 4,500m<sup>3</sup>

昭和21(1946)年11月までに浄水・配水設備は完成したものの、ダムの完成には至りませんでした。計画から遅れること約1年後の昭和23年3月に、ようやく<sup>あゆみ</sup>鮎返ダムは完成しました。



鮎返配水池【写真：年代不明】



鮎返ダム 建設工事中【写真：昭和22(1947)年頃】

#### 囚人も参加した鮎返堰堤工事

占領軍が別府に駐屯することが本決まりになると占領軍専用の浄水場が建設されることになりました。建設予定地として鮎返川上流が選ばれ、アメリカ軍が野口原に進駐する昭和21(1946)年12月までに工事を完成させなければなりません。

工事は「鮎返川周辺から野口原の兵舎はすぐに見える。目と鼻の先だ。落差も十分だし、管路も最短距離で済む。工事は簡単だ。」と思われていました。

ところが、工事に携わる業者は、この工事が難工事になることを知っていました。水量の問題やダムを作るには不適地であるのと同時に、工期が極端に短いということでした。

昭和21(1946)年7月に宿舍などの建設工事が開始され、同時に八坂神社上の沈んで池、配水池の建設も行われました。

しかし、昼夜を問わず行われたこれらの工事も人手が足りず、やむなく大分刑務所の囚人約80名がダム建設の工事に参加しました。彼らは、看守護衛のもと、水色の囚人服で働きましたが、手弁当や労賃もきちんと払われるという待遇のよさでした。

こうして計画から遅れること約1年後の昭和23(1948)年3月、完成となりました。昭和21年12月からキャンプに入っていたアメリカ軍やその家族は、市の浄水を使用していました。

「別府と占領軍」 別府市立図書館 所蔵



# 別府市水道のあゆみ

## 第3期 拡張事業

昭和23(1948)年4月8日～昭和23(1948)年11月30日

計画給水区域	第2期拡張計画と同じ
計画給水人口	85,000人
計画1人1日最大給水量	180ℓ
計画1日最大給水量	15,300m <sup>3</sup>
計画事業費	4,243千円
事業認可	昭和23(1948)年2月25日

## 苦肉の策で水源を変更

創設時から別府市の水源である<sup>あゆがえり</sup>鮎返川を占領軍に接收されたため、必然的に給水不足が生じ、夏には給水制限（6時間のみ給水）を実施するまでに陥りました。



鮎返ダム【写真：昭和23(1948)年3月頃】

そこで、苦肉の策として朝見川伏流水を取水することに決定し、昭和23(1948)年2月に認可を受け、着工しました。

## 事業の概要

給水区域、給水人口、給水量はすべて『第2期 拡張事業』計画のままとし、朝見橋（現：第1水道橋）付近にポンプ室を建設し、朝見川から取水した5,500m<sup>3</sup>の水を朝見浄水場へ加圧送水することにしました。

## 占領軍専用水道の無償譲与

昭和21(1946)年12月から通水を開始した占領軍専用水道は、ろ過池・給水の責任に関する問題や<sup>あゆがえり</sup>鮎返ダムの管理について、アメリカ軍・大分県・別府市の3者で協議がなされ、昭和23年5月から別府市において維持管理（取水施設から兵舎入口付近の配水管までの区間）をするようになりました。



野口原付近 「別府と占領軍」 別府市立図書館 所蔵

その後、昭和29(1954)年12月23日付けで、上記の維持管理区間を使用指定の条件付き（条件：昭和39年12月22日までは、別府市民・アメリカ駐留軍の給水施設として使用すること。）で無償譲与されました。



アメリカ兵向けの看板 「昭和30年頃の大分県」 別府市立図書館 所蔵

また、昭和32(1957)年3月24日、アメリカ駐留軍の本国引揚げの際、水道施設の一部を自衛隊使用のための国有財産とした以外のすべてを、昭和34年6月6日付けで、使用指定の条件付き（条件：昭和44年6月9日までは、別府市の上水道の一環として配水設備の用途にすること。）で無償譲与されました。

昭和44(1969)年6月9日付けをもって、使用指定期間が完了したことから、水道施設のすべては別府市に帰属することになりました。

## 第4期 拡張事業

昭和26(1951)年3月20日～昭和30(1955)年3月31日

計画給水区域 山間部を除く市内一円

計画給水人口 91,000人

計画1人1日最大給水量 300ℓ

計画1日最大給水量 27,300m<sup>3</sup>

計画事業費 144,983千円

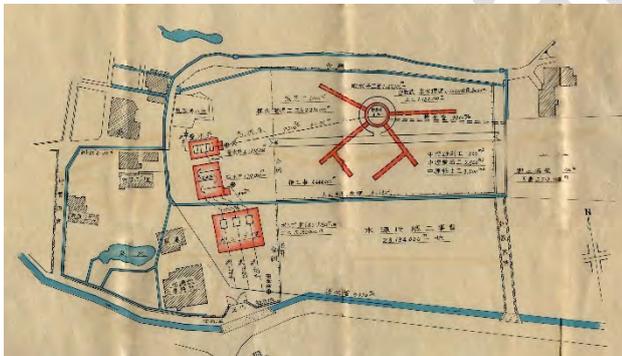
事業認可 昭和25(1950)年8月11日

ぬくみ

### 温水水源をさらに開発

『第3期 拡張事業』で行った朝見川伏流水の取水によって小康を保ちつつあった本市の水道事情も、占領軍の宿舎建設工事や戦後の復旧工事の促進と相まって市内人口が急速に増加し、再び市内の各所で給水不足が叫ばれるようになりました。

そこで、『第2期 拡張事業』で建設した<sup>ぬくみ</sup>温水水源をさらに開発し、市内一円の給水量を増加させることとし、昭和25(1950)年8月に認可を受け、着工しました。



温水水源地 図面

### 事業の概要

当時の<sup>ぬくみ</sup>温水水源の湧水量は、8,000m<sup>3</sup>/日でしたが、『第2期 拡張事業』ではこのうち2,500m<sup>3</sup>のみ揚水していました。今回の事業では、残りすべての湧水を揚水できるように、量水井・吸水井・ポンプ室を建設すると同時に、<sup>ぬくみ</sup>温水水源地は海岸に近く、満潮時には潮の逆流を受ける可能性や周囲の汚水による湧水の汚染を防ぐため、取水井一帯をコンクリート擁壁で囲み、構内には人止柵に金網を張り、一般人の立入りを禁止しました。



温水湧水【写真：昭和30(1955)年頃】



温水水源地【写真：昭和30(1955)年頃】

また、市内大字亀川字ハイの木の土地を買収、配水池（1,400m<sup>3</sup>）を建設し、温水からポンプにより送水しました。配水池からは、自然流下により配水し、配水本管は境川右岸まで、配水支管は富士見通り7丁目まで布設され、それぞれ朝見水系の既設管と連絡し、相互給水ができるようにしました。



亀川配水池【写真：昭和30(1955)年頃】



# 別府市水道のあゆみ

## 第5期 拡張事業

昭和37(1962)年4月1日～昭和39(1964)年3月31日

計画給水区域 観海寺・荘園地区を加える  
 計画給水人口 99,400人  
 計画1人1日最大給水量 340ℓ  
 計画1日最大給水量 33,800m<sup>3</sup>  
 計画事業費 79,527千円  
 事業認可 昭和37(1962)年4月1日

### 民営水道を買収・統合し、一元化

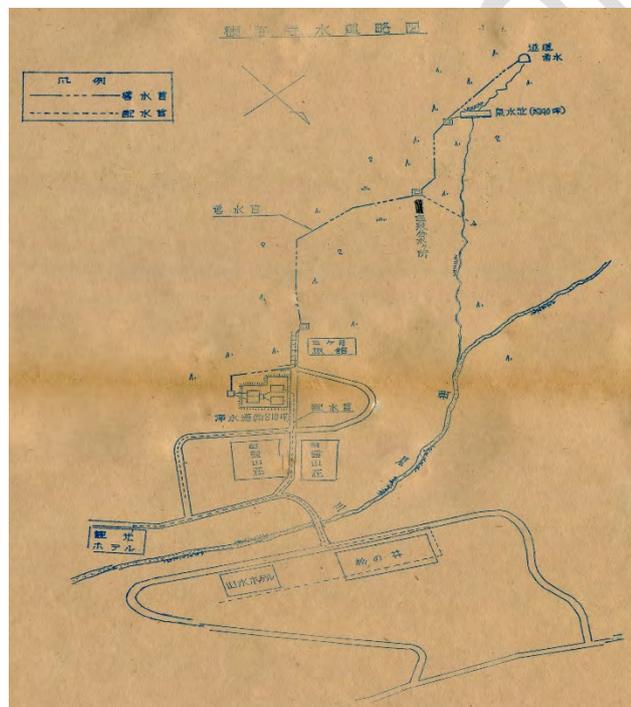
民間が経営する観海寺・荘園簡易水道を買収することとなったため、昭和37(1962)年4月に認可を受け、着工しました。

#### 観海寺水道

計画給水区域 観海寺地区

計画給水人口 940人

計画1人1日最大給水量 840ℓ



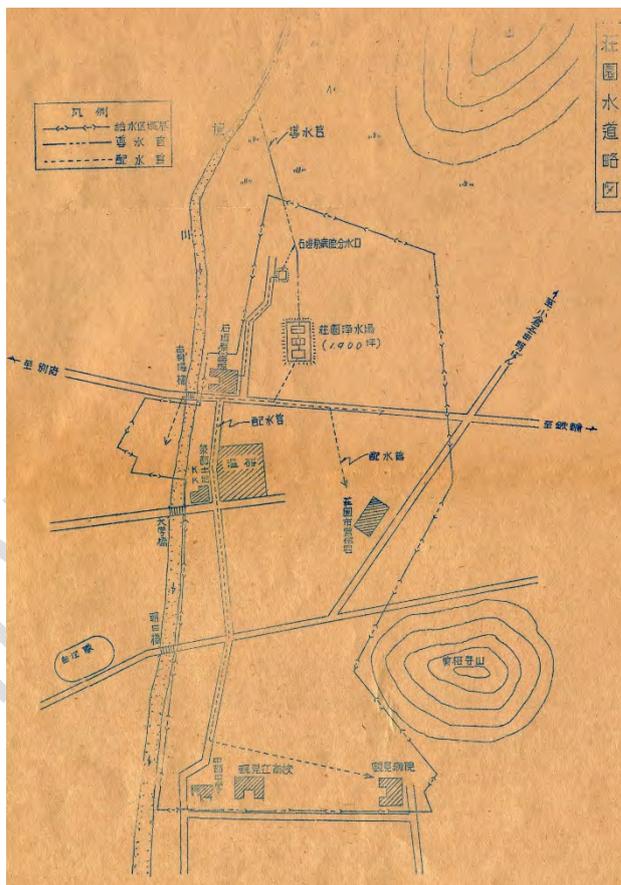
観海寺水道 略図

#### 荘園水道

計画給水区域 荘園地区

計画給水人口 3,800人

計画1人1日最大給水量 840ℓ



荘園水道 略図

### 事業の概要

本市の高地地区にあたる観海寺・鶴見原・荘園・南立石等の地区に古くから給水事業を行っていた民営水道を買収・統合し、あわせて既認可給水区域周辺の未給水区域を解消するため、買収施設を改良するとともに、これを既設水道に連絡することによって、市内給水の一元化を図りました。

# 別府市水道のあゆみ

## 買収交渉は難航

観海寺・荘園民営水道の経営者である泉都土地建物(株)の前身は、別府観海寺土地(株)で大正9(1920)年に創立され、観海寺・荘園の土地や温泉と観海寺水道を経営していました。その後、昭和5(1930)年に会社を解散し、国栄(株)が事業を継承しました。

一方、昭和4(1929)年から国武事務所が荘園地区の土地や水道と温泉を経営していました。

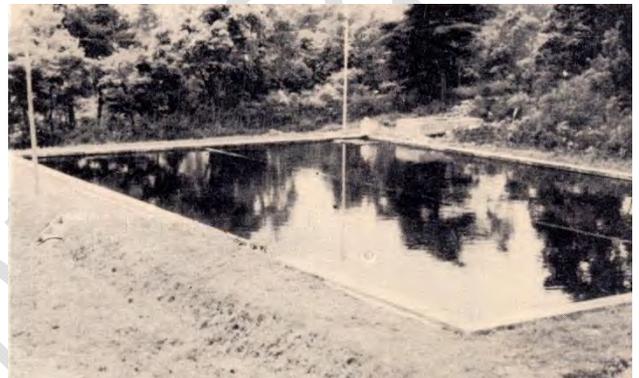


観海寺配水池【写真：年代不明】

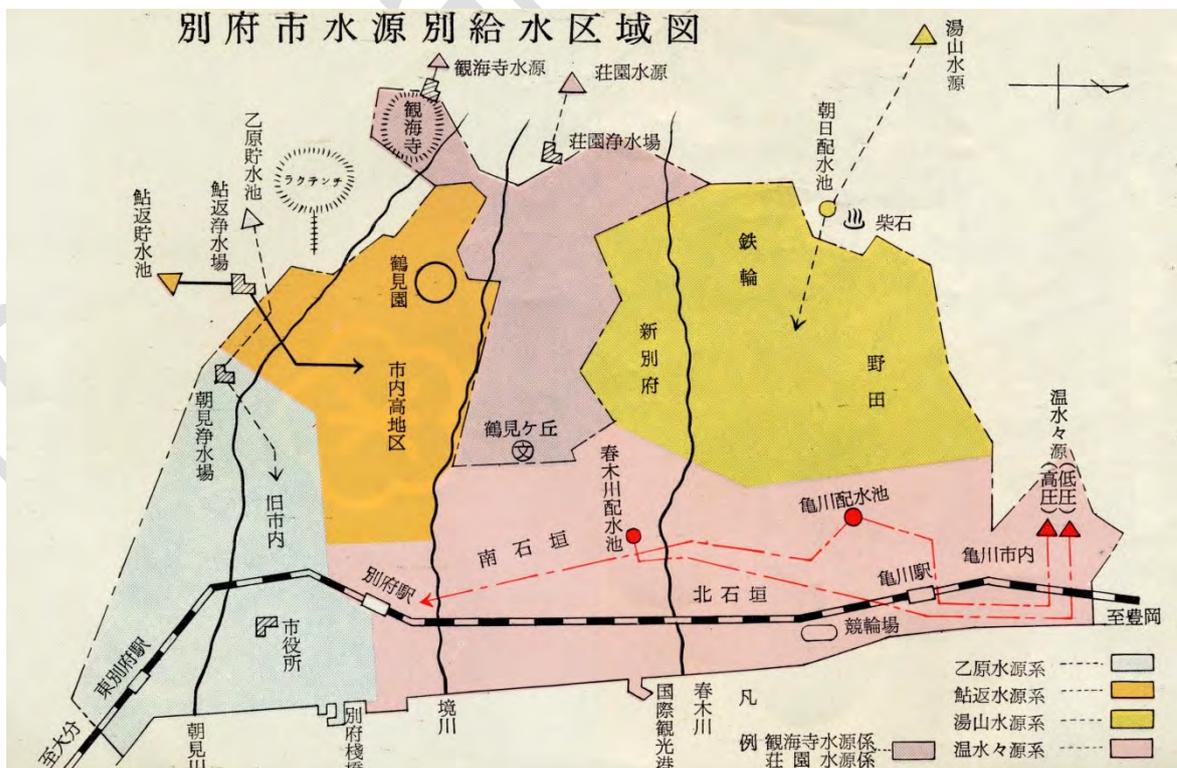
昭和14(1939)年、泉都土地(株) (昭和31(1956)年に増資。泉都土地建物(株)に名称を変更) が創設され、国栄(株)と国武事務所を買収して経営し、両者の事業一切を継承しました。荘園・観海寺地区は、別府町水道の給水区域外であったため、山の手の開発に着目して水道を布設したものでした。

昭和36(1961)年9月、別府市は議会で両民営水道の買収(期限は翌年3月まで)を決定し、資産評価などの調査を行いました。同年12月から買収交渉を行いました。市が試算する評価額と売却希望額との差がなかなか埋まりませんでした。

地元新聞なども注目する中、数回の交渉を行った結果、昭和37(1962)年2月、互いに折れ合う形で遂に妥結となりました。



荘園浄水池(沈でん池)【写真：年代不明】



別府市水源別給水区域図【昭和38(1963)年頃】



# 特集

## 新聞で振り返る①

第1期 拡張期

創設期～第5期 拡張期

### 創設期

**別府町の六割は水道の水**

別府町の水道状況は七月以来全敷共同用水使用水は平素一ヶ月料金を二十四錢、水費二十石迄なるを三十石迄し専用給水に對しても六月に使用せし水の五割を別に料金を徴せしめて増給し以て夏期に於ける給水の便宜を圖りつゝ、八百石内外を上り、而して現在使用戸數約八百餘戸、共同用水百一十個専用給水五百七十個を有し大正五年三月給水開始以來漸く二年餘に過ぎざる今日既に其の使用戸數は別府町全戸數の六割に達する好成績なり。

大正7(1918)年8月27日 大分新聞 大分県立図書館 所蔵

**水壓全國第二位で清水日に二萬石**

別府町の水道

別府町の水道は、泉都の無敵な湧泉、此の豊富な水であり、あらゆる水道長石崎氏は語る「此項一週間程、衛生課へ出張して、細密試験をしましたが、一、四、四、七センチメートル立方の中に原水には二千以上の細菌が居ますが、濾過した浄水になるに十八乃至二十七位に減少する。夏に濁水を訴へ困難する處、何人の顔にも水の音が響く深かんて来る海に川に夏の水達は懐しいに違ひないがさうしたのもより一層痛切なのは日常生活に必要な飲料水の不足である。地下唯一の別府町水道は、泉都の無敵な湧泉、此の豊富な水であり、あらゆる水道長石崎氏は語る「此項一週間程、衛生課へ出張して、細密試験をしましたが、一、四、四、七センチメートル立方の中に原水には二千以上の細菌が居ますが、濾過した浄水になるに十八乃至二十七位に減少する。」

大正8(1919)年5月30日 大分新聞 大分県立図書館 所蔵

**断水の脅威から救はれた別府**

節水宣傳がきいたか

十月には水道擴張工事着手

別府市水道課では既記の通り断水の脅威から市民を救ふために「お互に水を節しませう」のポスターを一般使用者に配布すると同時に各區長に依頼してその趣意を徹底させるなど、極力節約宣傳に努めてゐるが七月に入つて断水開始後、今日までの給水量は六十二萬石、一日の最高使用量は二萬一千石で、昨年の二萬二千八百石に比し一千八百石を減じてゐるのは明かに、宣傳の効果と云へば、現在一日の濾過能力は一萬六千石なるも、濾過貯水池使用、濾過速度の増進等により二萬三千石内外は供給し得る可能性がある。此の状態で維持するに於ては先づ断水の憂はあらずといふ樂觀されてゐる。因に久しく行儀の状態にあつた上水道擴張工事、備蓄可を見越し十月早々擴張工事に着手する予定で準備を進めてゐると。

大正14(1925)年7月30日 大分新聞 大分県立図書館 所蔵

**別府上水道 擴張起工式**

六日朝見で盛大に

既報、別府市上水道擴張工事は、意上總ての準備を終つたので六日午後十一時より別府清水操場内で盛大なる起工式を挙げたが、之より先き場内には祭壇を設け、主運轉を張り定刻燧火三發を合圖に各關係者有志等着席、警備助役等式に備主の祝詞の奏上あり、神式並に廣主の祝詞の奏上あり、讀市長市會議長水酒委員總代、列者總代其他の玉川、藤原、市長、神官の昇神式に次ぎ、神澤市長、辭を述べ來賓の祝辭ありて、最後に芳置助段閉式の辭を述べ、引き開宴午後一時發況裡に散會

大正15(1926)年2月7日 大分新聞 大分県立図書館 所蔵

**別府の水道擴張工事 意外に早く竣工**

六月中旬に通水式

断水の心配もなくなる

工費五十三萬六千圓を以て起工した別府市上水道擴張工事は、明城三月、機成定の際、工事急進に、推し進め、九ヶ月を早め五月中旬に大體の工事を終り、竣工も六月中旬には全部の上る時になつた。三十一日は、縣衛生課の西田技師出張して、水質検査を行つた。その結果、良好なれば、六月中旬、通水式を行ひ、直に給水を開始する時になつてゐる、かくして、毎年夏期断水で苦しめられてゐた別府市民も、今

**擴張工事** は長さ三十九メートル、幅二十メートルの大方池、池四箇、長さ二十メートル、幅十八メートル、高さ四メートルの貯水池、二箇、増設給水十一インチ、一日、九半の管、七萬五千、一を十分、に容ひ得ると。

昭和2(1927)年6月1日 大分新聞 大分県立図書館 所蔵

## 境、春木兩川の 使用認可を願

### 別府の上水道擴張計畫

人口二千萬人を目標に別府市の春木川のは長さ三三三米第一止水道擴張工事は着々準備を進めてゐるが、境川及び春木川兩川へ引水管敷設の必要上近く縣に河川使用許可を出願するとになつた

温見の水源地を利用する本擴張工事業費用は十七萬五千圓で、湧出量は七萬五千石に達して、湧出量は一日五萬石に上り更にポンプを利用すれば更に十萬石は湧出する、これに朝原水源地の水を加ふると二十萬石人へ易々と給水が出来る、一日五萬石の水増あれば五萬五千人

### 温水水源地利用の

## 別府上水道擴張

### 起債認可を待つて着工

二十萬の人口を養ふ大別府郡向温水水源地利用の新上水道計画のため市水道課では温水水源地に石城郡新別荘地水源地利用の上水道擴張計畫を立案し、計画的に海濱遊歩場附近にまで配水する等、右に關し工費十七萬五千圓を按じて、近にまで配水する等に關し配水の萬全を期すべく、その設計もこの程完了し、所屬總務課の配給に就ては過敷田助役、石城水道課長が與海軍鐵守府を訪問して協力を求めた結果有観望するに至り、總務課配給の許可と起債認可を待つて直ちに着手することとなつたこれに先立ち市では一兩日中に

現在自然湧出してゐる五萬石はポンプ作用によつて十萬石以上の水が得られる、五萬石で五萬五千人がまかなへるが温水水源地から約十萬石、それに現在の水源地を合すれば二十萬人の用水は充分である

昭和 1 5 (1940)年 8 月 2 日 豊州新報 大分県立図書館 所蔵

## 別府市上水道 擴張工事起工式

### 十九日現場で舉行

二十四萬圓を投じ市直營の温水水供給試験によつて上水道水源地利用の別府市上水道擴張工事として受領の指割がつけられ、起工式は十九日午前十時から、現場で執行された、手島、小野道に於て石垣を構築、春木川附近から海岸に向けて配水し、乙原地元代表者ら來賓多數、縣内市市長、石城水道課長以下市關係者出席、國民會館に於いて開式、神朝見神社を祭主として、起工式を可成り別府の上水道から不足の文字を解消することゝなり、一般給水に非常時用水に充てる水道網が張られるわけを期待されてゐる

### 別府市また 節水

別府市では去る十五日節水を解除し、共同浴場等普通水道水を配水してゐたが三十日現在、水源地湧出量は七萬五千石となり、貯水池も十五尺五寸減水したので同日から公衆用水、共同浴場等に僅分の節水をする事となつた、尚松原公園の配水は一時間約三百石であるがこれも五社組合夏祭の終了と共に極度の節水を実施した

## 第 2 期 擴張期

### 断水、節水に 心構へが不充分

#### 別府市水道課長語る

別府市では既報の如く十二日夜から時間断水水道断水を行ひ、断天に對する長期抗戦の体感を感へたが、断水二日に亘つて一萬八千石を節約し、實際別府水面から十一尺減水してゐた貯水池は僅か四尺減といふところまで溜さつて後二、三日で満水に達する程度である、然し降雨なき限り極度の節水、断水は必要であり、石城水道課長は断水の成績に就て左の如く語る

断水を実施して市民諸君には断水から迷惑をかけたゐるが、これは致し方がない、市民間にはまた断水、節水に對する心構へが充分に出来てゐない、その證據には、夜間断水の効果が極めて薄く、これは使用者が断水前準備として汲み置いても所定の時間を経過して給水が止まると汲置きの水は無暗に放棄する傾向があるらしい、また断水してゐるため給水栓を開放したまゝにして置く向もある、そして給水の時になつて白濁した水が出るので、これを悪水と思つて棄てる、この白濁は給水管に空気が混入したため起る作用でその水は三、四分も経ればまた元の清水に返り無害のものであるから大切に使用して貰ふたい

昭和 1 5 (1940)年 6 月 1 5 日 豊州新報 大分県立図書館 所蔵

昭和 1 5 (1940)年 7 月 3 1 日 豊州新報 大分県立図書館 所蔵

昭和 1 7 (1942)年 1 月 2 1 日 豊州新報 大分県立図書館 所蔵

# 水ききん

(3)

## 毎年同じくり返し

別府市の水不足は毎年やってくる。「水不足はかたにはなにもない」といって、

から水の不足を解決しようと、行政の結果である「自然条件に恵まれている」といって、

「水不足はかたにはなにもない」といって、

## 人 災

### 別府市の場合

別府市長も、

「水不足はかたにはなにもない」といって、

## 消費量は急上昇

消費量は急上昇している。これは、

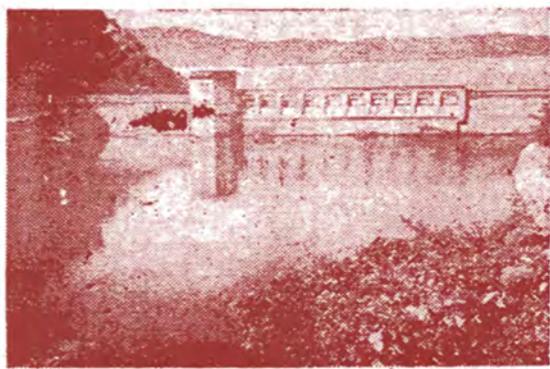
「水不足はかたにはなにもない」といって、

# ハデでない水道事業

## 自然市当局の腰も重く

別府市の水道事業は、

「水不足はかたにはなにもない」といって、



日ごとに減水する點返野水池（別府市）

## 別府の水不足解消へ

### 温見水源地从ら引水

八月一日別府市の水道使用量は一日で約三万五千トンのほり市の水道開設以来の最高記録であった。

水道部では温見水源地从ら市内への送水管を敷設し給水量の増進をはかるため、このほど工事着手したが、完成は十五日ごろの間に日照りが続く頭見、粘着の

の取水が少いので、最近では温見水源地の給水を合ると毎日三万二千トンを確保するのがやっと。あと一週間ぐらい日照りが続く必要量を割りそうになってき

た。ところが温見水源地は百十馬力ポンプ二台をつけ、鬼川、鉄輪と北別府地区に毎日一万トンを給水しているが、毎日六千トンの水が余るので川に捨てている。

このため水道部では総工費二百四十万円で百十馬力ポンプ一台を同水源地に増設、野口橋下の七十五馬力ポンプ約五百馬力を二百

昭和32(1957)年8月3日 大分合同新聞 大分県立図書館 所蔵

昭和36(1961)年7月22日 大分合同新聞 大分県立図書館 所蔵





# 別府市水道のあゆみ

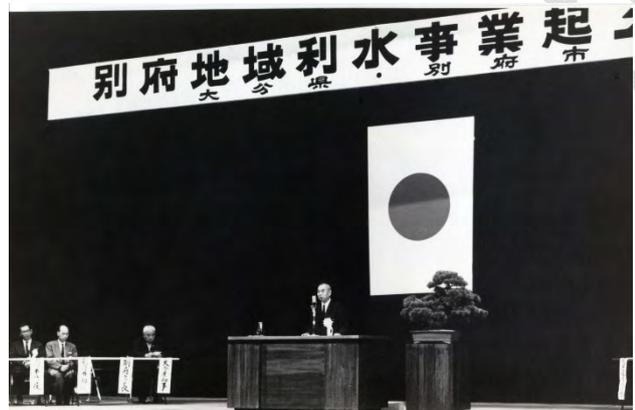
## 第6期 拡張事業

昭和39(1964)年4月1日～昭和44(1969)年6月30日

計画給水区域	扇山地区を加える
計画給水人口	135,000人
計画1人1日最大給水量	660ℓ
計画1日最大給水量	89,100m <sup>3</sup>
計画事業費	1,588,385千円
事業認可	昭和38(1963)年12月28日

## 給水不足の抜本的解決

『第4期 拡張事業』を施行して以来、約10年が経過し、戦後の好況に乗じて市民生活が向上したことで、人口の増加が水需要の増加を招き、市内の随所、特に観海寺・荘園・鉄輪地区などの高地地区で給水不足が著しくなったことから、抜本的解決策として目標を昭和50(1975)年度として、昭和38(1963)年12月に認可を受け、着工しました。



起工式【写真：昭和38(1963)年頃】



起工式(朝見浄水場内)【写真：昭和39(1964)年頃】

## 事業の概要

『第6期 拡張事業』は、緊急度や経済性を加味して、5つの主な事業を実施しています。

### ① 別府地域利水事業

工期 昭和39(1964)年4月～昭和41(1966)年8月

計画事業費 764,000千円

取水地点を隣接都市である大分郡庄内町大字西字萩の迫(現：由布市庄内町)の標高230m付近の大分川上流として、既存のかんがい水路である元治水井路(延長12.844km)を改修、中継地点である小狭間川取水施設から専用隧道(延長7.921km)を新設し、その先には落差120mの落差を利用して毎時1,400kwが発電できる水力発電所を設けました。

その後、水力発電に利用した水を分水槽に放水し、それを朝見浄水場で受水するという、壮大なスケールでした。



大分川取水施設

【写真：昭和41(1966)年頃】



小狭間川取水施設

【写真：昭和41(1966)年頃】



(中央) 元治水井路改修記念碑 (右) 元治水井路【写真：昭和41(1966)年頃】

# 別府市水道のあゆみ

この事業は、大分県（企業局）の指示と助言を受けながら共同で水利権の獲得や導水路の決定等を行いました。特に、<sup>ずいどう</sup>隧道工事は困難を極めました、<sup>おおむ</sup>概ね計画通りに完成し、昭和41(1966)年9月に開催された「大分国体」の成功の原動力、そして、市民給水の重要な水源として役割を果たしました。



由布川水路橋【写真：昭和41(1966)年頃】



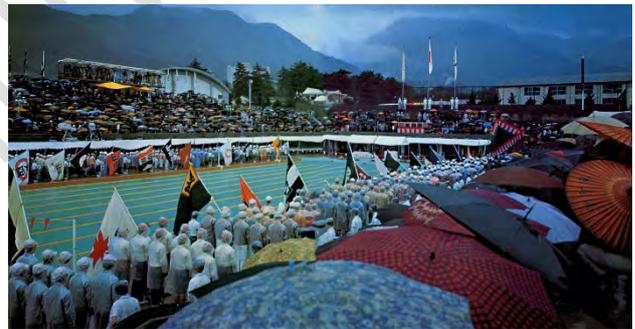
専用隧道（トンネル）第4号 掘削現場  
大量のわき水【写真：昭和40(1965)年頃】



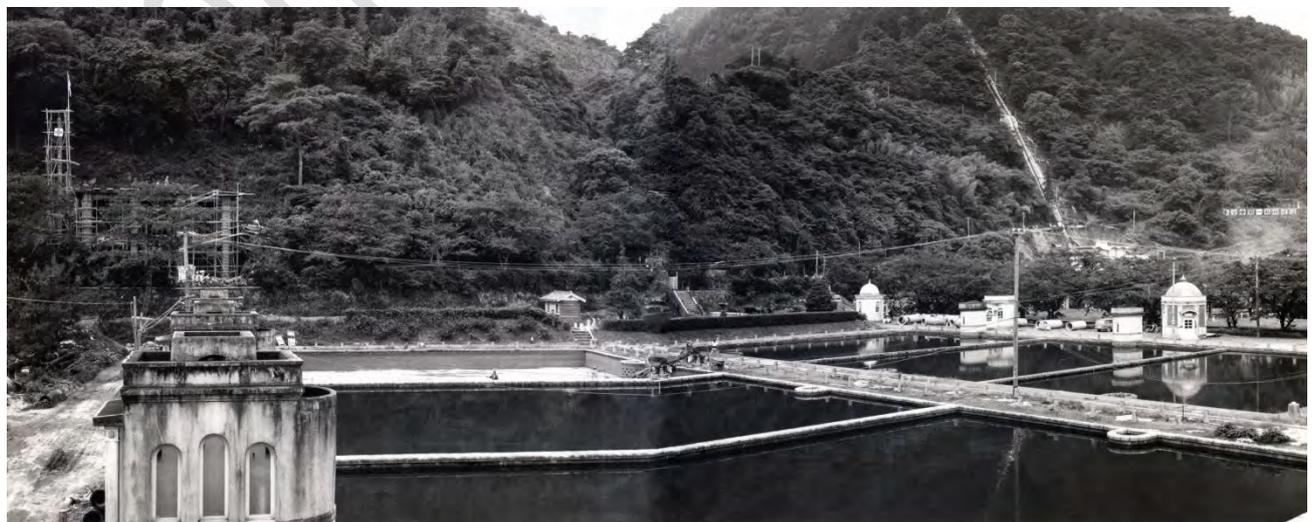
別府発電所 圧力管 1,100mm 布設工事中  
【写真：昭和40(1965)年頃】



専用隧道（トンネル）第4号 掘削現場【写真：昭和40(1965)年頃】



雨の中の開会式 「大分国体'66 第21回」 別府市立図書館 所蔵



朝見浄水場 全景【写真：昭和41(1966)年頃】



## 別府市水道のあゆみ

### ② 朝見浄水場拡張事業

工 期 昭和39(1964)年4月～昭和44(1969)年3月

計画事業費 441,000千円

別府地域利水事業によって、大分川から送られてくる原水を浄水して市内に配水するため、拡張施設用地の買収や約300基の墓碑を移転しました。

また、口径800mmの導水管の布設後、昭和41(1966)年3月から2期に分け、薬品沈でん急速ろ過による自動制御装置を備える浄配水施設の建設にかかり、第1期分を昭和42年3月に完成させ、続いて第2期分に着工し、昭和44年3月に完成しました。

これで、5万 $\text{m}^3$ /日の浄配水能力を持つ、本市最大で近代的な施設が完備されました。



朝見浄水場 全景【写真：昭和41(1966)年頃】



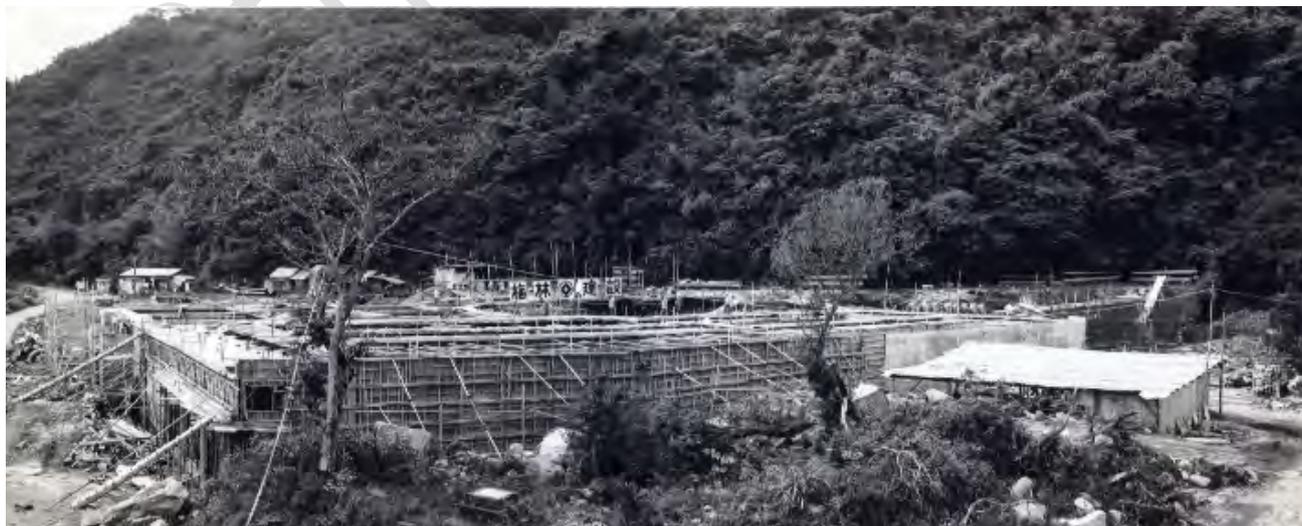
別府発電所【写真：昭和44(1969)年頃】



配水池(2池) 建設工事中【写真：昭和41(1966)年頃】



薬品沈でん池(4池) 建設工事中【写真：昭和42(1967)年頃】



薬品沈でん池(4池) 建設工事中【写真：昭和41(1966)年頃】

# 別府市水道のあゆみ



配水池 (2池)



薬品沈でん池 (4池)



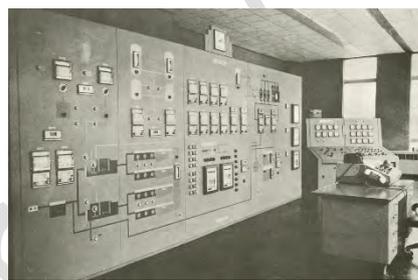
急速ろ過池 (8池)



洗浄水槽 (1池)



水質管理室



浄・配水管理室



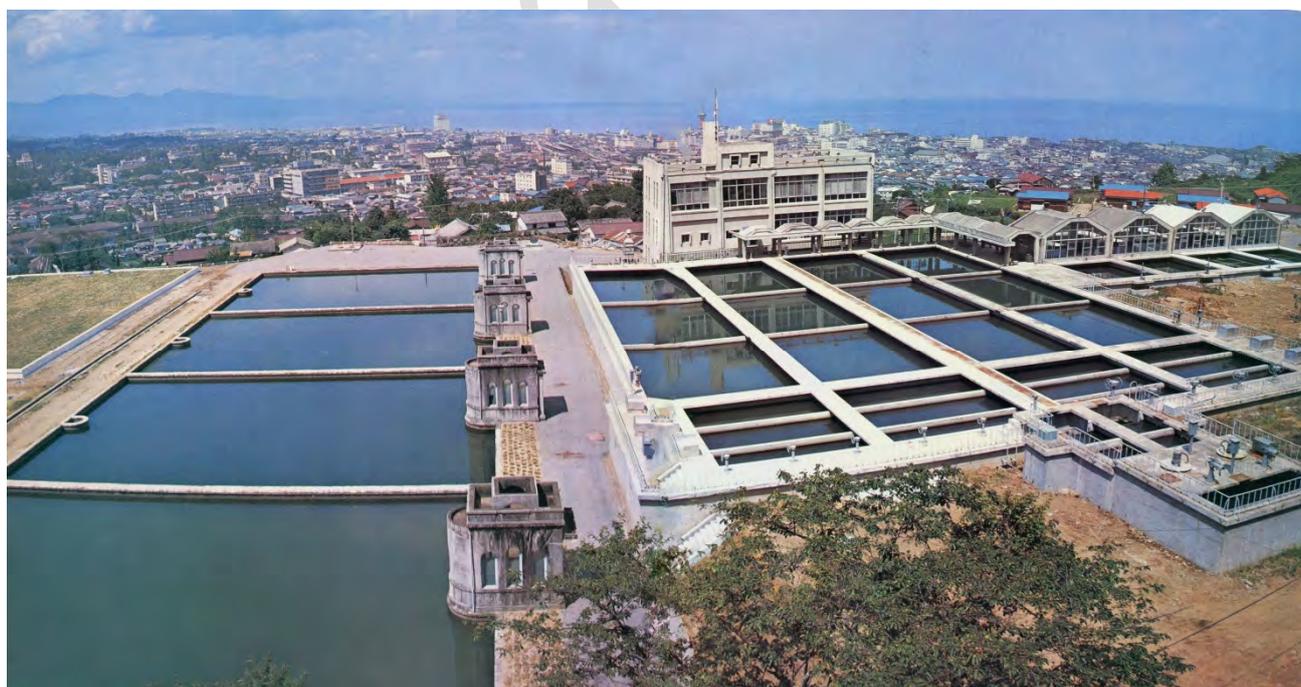
急速ろ過池 操作室



総合管理所



完成記念碑



朝見浄水場 完成 [写真：昭和44(1969)年頃]

## 別府市水道のあゆみ

### ③ 温水水源地拡張・東鉄輪配水施設建設事業

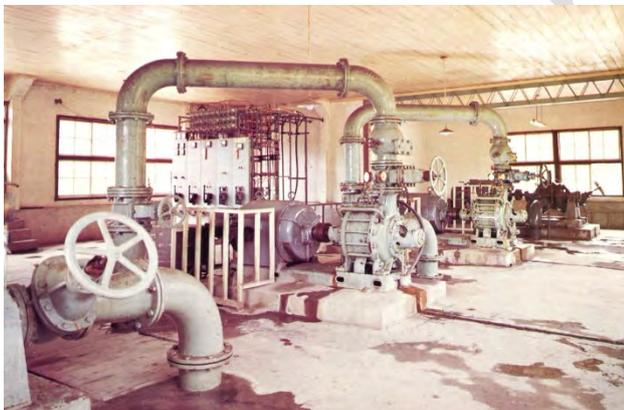
工期 昭和39(1964)年4月～昭和42(1967)年6月

計画事業費 56,000千円

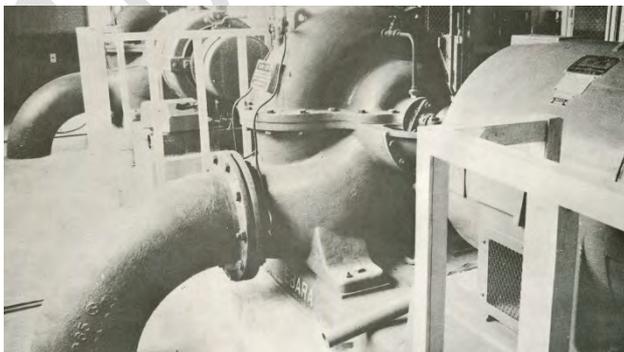
温水水源地の隣接地に井戸を2箇所掘り、2,000m<sup>3</sup>/日が取水できるように水源増強を行い、この水を亀川配水池に送水するポンプの増設、亀川配水池を増設(1池)、更にその途中で加圧することができる清源庵ポンプ室を建設し、昭和40(1965)年3月に完成させました。



温水水源地 送水ポンプ室【写真：昭和44(1969)年頃】

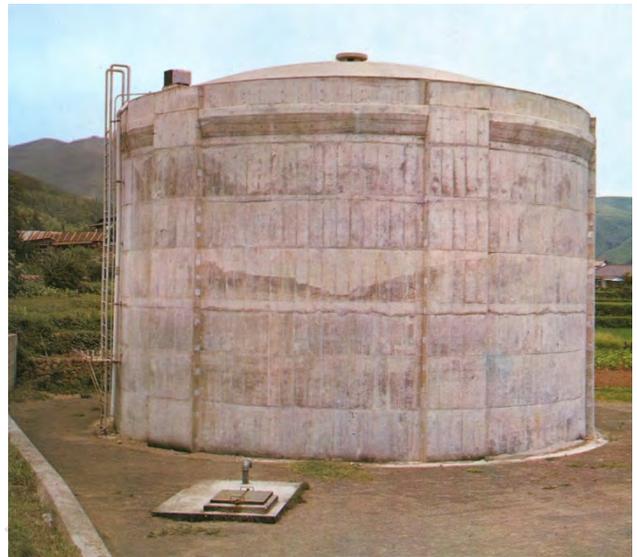


温水水源地 送水ポンプ室 内部【写真：昭和44(1969)年頃】



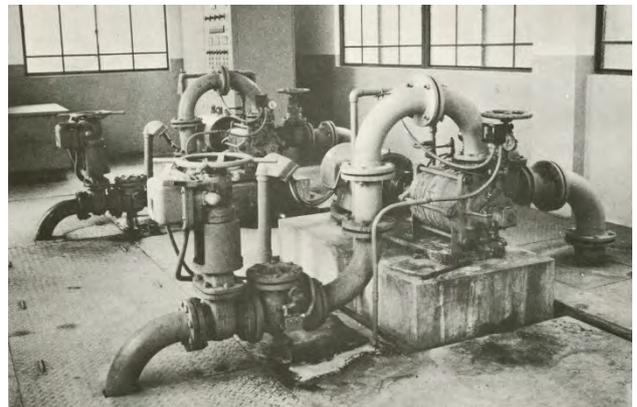
清源庵加圧ポンプ室【写真：昭和44(1969)年頃】

その後、鉄輪地区の給水不足を補うとともに、九州横断道路の開通により、ホテルや新興住宅地として脚光を浴びる東鉄輪・実相寺・桜ヶ丘その他石垣高地地区の給水に備えて、昭和41(1966)年1月から鉄輪に配水池を建設する工事に着工しました。



東鉄輪配水池【写真：昭和44(1969)年頃】

同時に、その配水池に送水するため、亀川配水池に隣接した場所に板山加圧ポンプ室を建設し、昭和42(1967)年6月に完成させました。



板山加圧ポンプ室【写真：昭和44(1969)年頃】

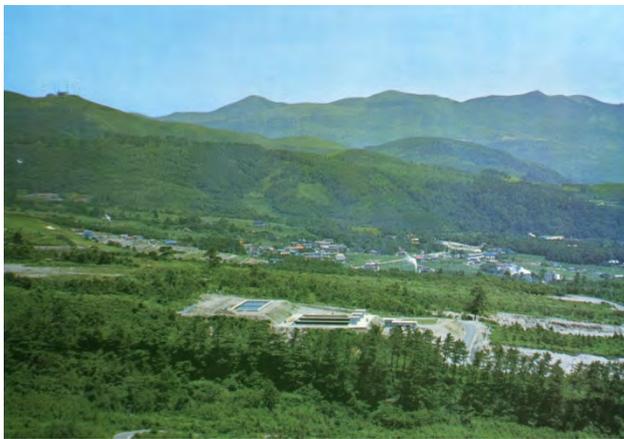
# 別府市水道のあゆみ

## ④ 荘園浄水場移転拡張事業

工期 昭和42(1967)年12月～昭和43(1968)年6月

計画事業費 52,000千円

水道事業の一元化のため、『第5期 拡張事業』において買収した民営水道のうち荘園浄水場は、その後の高地地区の発展に伴う需要に応じられない標高の位置にあったため、これに変わる施設として九州横断道路の西側、標高300mの扇山山麓の国有地約1万5,000㎡を借り受けて、緩速ろ過方式によって3,000㎡/日の浄水を配水する扇山浄水場を建設しました。



扇山浄水場 全景【写真：昭和44(1969)年頃】



普通沈でん池（1池）【写真：昭和44(1969)年頃】



緩速ろ過池（3池）【写真：昭和43(1968)年頃】

この結果、南立石、扇山、竹の内の各地区を給水できるようになりました。

### 『第6期 拡張事業』を必要とする理由

～略～ 『第5期 拡張事業』完成による1日最大配水能力は3万7,300㎡であるが、水道需要はバカンス、レジャーブームや所得倍増ムードによって観光客の驚異的な増加に加えて、冷暖房の普及等によって急激に増大し、計画初年度ではこれが4万2,325㎡におよび、配水能力を遥かに凌ぐようになり、市内各所に出水不良、断水などを余儀なくされた。

この傾向は明年の東京オリンピック、昭和41(1966)年大分国体によって誘致される観光客及び本市を含む大分を中心とする広域産業都市建設並びに本市固有の都市計画の進捗による人口増加等、今後一層水道需要は急激に増加するばかりである。さらに、これらの需要を賄うのに必要な水源は本市の行政区域内には求め得ない実情にあり、勢い『第4期 拡張計画』に際し、検討した大分川以外に近隣に求め難い。仮に、大分川に水源を求め前記需要に応えるとしても大分川の水量は極めて少なく、既にかんがい、発電に利用されているほか、大分、鶴崎、臨海工業建設に伴う工業用水のほか、需要は極めて大きく、かつ、本市のようにその流域外の市町村の割込みは至難な現状で、このことが今日まで拡張計画の遅れた原因の一つにもなっている。

それが今回は、大分県において大分鶴崎の新産業都市指定を契機に、本市を含む大分広域都市建設計画がなされ、この計画の一環として本市上水道の水源を大分川に求める必要性が認められ、加えて大分県電気局（現：大分県企業局）による県営別府発電事業が困難な大分川既存水利権解決の具体的措置のため行われることになり、取水権取得の可能性が十分明らかになった。

ここに本市は、『第4期 拡張事業』計画以来十数年に及ぶ宿望であった安定的多量の原水の取水が可能で、ひいては、長期的対策が樹立できることになった。本市の配水能力及び配水実績は、前述のとおり現在既に2,500㎡/日も不足し、毎年3,000㎡程度ずつ需要が増加している現状に加えて、昭和39年には東京オリンピック、昭和41年には大分国体の開催によって参加選手・役員をはじめ、多数の観光客の来訪が予測され、更に前記新規産業都市、広域産業都市の建設における一般観光客の激増すう勢から、昭和41年秋までには約3万㎡/日、昭和50年度までには約5万8000㎡/日の配水能力を整備するとともに、在来の各水道施設を調整し、その需要に応えるよう事業変更を迫られている。

別府市水道事業変更認可申請書（第6期拡張事業）【昭和38(1963)年12月】から抜粋



# 別府市水道のあゆみ

## ⑤ 配水管整備事業

これら4つの事業で行った基幹施設からの配水管や出水不良地区の改善、配水管未布設地区の解消、また、新しく給水区域に入った南立石・竹の内地区などの配水管整備のため、『第6期 拡張事業』期間を通じて、緊急性に応じて順次、配水管を布設しました。



朝見水系600mm配水本管 溶接工事中【写真：昭和44(1969)年頃】



朝見水系600mm配水本管 吊り下げ工事中【写真：昭和44(1969)年頃】



朝見水系600mm配水本管朝見川水管橋【写真：昭和44(1969)年頃】



朝見水系600mm配水本管 布設工事中【写真：昭和44(1969)年頃】

これらにより、本市の水道行政は大きな飛躍を遂げ、慢性的な給水不足を解消することができました。

## 高地区配水施設整備事業

扇山・鶴見地区などの高地地区の配水を強化し、朝見浄水場の配水の拡大を図るため、野口原ポンプ場を建設し、荘園配水池と荘園ポンプ場を経由した後、鶴見原配水池まで送水する水系の構築を行いました。

あわせて、石垣地区の区画整理・国道10号線の配水管網の整備も図り、昭和46(1971)年から4か年の継続事業として施行しました。

工期 昭和46(1971)年4月～昭和50(1975)年3月

計画事業費 738,160千円



鶴見原配水池【写真：昭和48(1973)年頃】

# 別府市水道のあゆみ

## 別府地域利水事業概要図



別府地域利水事業 概要図



別府市給水区域図と第6期拡張事業主要配管図



# 特集

## 新聞で振り返る②

第6期 拡張期

### 別府利水事業 実現へ第二步

## 取水口まず解決

### 水利組合と話し合いつく

新年度々々工事を予定している別府利水事業（発電と上水道）について分県は関係水利組合との話し合いを進めているが九日、取水口水利権を持つ土地改良区の話し合いがまとまった。関係十五水利組合のうち手塚初に内閣決したもので、県では残り十四組合の話し合いにも期待をかけているが、二十三日には稲穂野のたけの産産者への計画説明もあり、計画実現へ一歩近づいたものとみられる。

九日まとまった組合は大分川本流・庄内町上武宮の取水口から庄内町、排開町にかけて水利権をもつ元治水井路土地改良区（佐藤吉夫理事長、組合員七百六十六人）で、同日午前十時から庄内町河内小学校で総代会を開き、県の計画に同意した。

県側からは菊電局総務課長、中川大分連絡事務所長らが出席、これまで数回にわたって説明してきた県側の態度を重ねて強調「かんがい用水には支障をあえなない」という点を双方で確認した。

同組合の関係水路は上武宮から小坂間川にいたる延長十二・七キロで県の計画によるこの区間は県と共用することになっている。しかも上武宮から別府市まで約二十キロにわたる水路のうち、この共用水路が大分を占めているため同組合との交渉は重畳していた。

この日の話し合いの結果、組合もこの共同利用を承認したが、同組合は三十四年いらい、水路の改修工事をしており、間もなく終わることになっている。しかし、これを発電、上水道用の水路として利用することになれば、さらに多量の水を流せるよう水路壁の力さ上げをしなくてはならない。このため、県でもこの区間では一部計画を変更、改修工事を組合と共同で進めることになり、今後細部について話し合うことになった。

いすれにしても、県としてはこれと併せて同計画の最初の懸案を片づけたわけで、これを皮切りとして引き続き下流の各組合との話し合いを進めたいと考えている。しかし、下流の各組合の利害関係はかなり複雑であり、初瀬井路をはじめ大分県水利組合も多いので、交渉は今後かなりむずかしいともみられる。

なお、県の計画は上武宮から毎秒〇・六リットル取水、これを別府市までひいて落差を利用して県営発電を行ない、さらにこれに使った水を上水道用の水として別府市に供給しようとしているのである。

## 発電所も作って

### 大分川の取水計画 別府市が陳情

土気 議会 県木

大分県議会土木電気委員会は二十八日午前十一時から県議会議第一委員会室で開き、三十八年度内付け予算案の内容について県執行部側から説明を聞いた。そのあと別府市の河村助役が、懸案になっている同市の水不足対策として大分川上流からの取水計画に県営発電所建設計画も加え、早急に実現してほしいと陳情した。別府市としては、大分川から取水するさい、

また午後一時からは第二委員会室で商工労働厚生委員会が開かれ、さきに同委員会が県内視察した結果に基づき、県側への要請事項について検討した。要請事項としては保健所医師の増員、職業訓練所の設備充実、福祉事務所の福祉司の増員などがあげられ、県執行部側も実現に努力したいと答えた。

昭和38(1963)年6月29日 大分合同新聞 大分県立図書館 所蔵

## 大分市でも反対

### 別府市の利水事業 工業用水などに響く

別府市の利水事業にたいし、大分市でもこれに反対する動きが高まっている。この問題については、庄内、排開町関係が、すでに反対の態度を示しているが、大分市の動きはこの反対運動にさらに拍車をかけ、複雑な問題に発展していった。

大分市では、この別府市利水事業についてはこのほど開いた定例市議会の一般質問でも取り上げられ、討論の中心の一つになった。

それらの意見をまとめると、同市の場合、大分川の水はまず元治水利、初瀬井路、明治大分水路、の受ける影響は大きく、この計画の改定区などあわせて二千二十七ヘクタールのほろ農地のかんがい用水に利用されている。このほか市水道用の重要水源であり、さらに大分市立ち会いのもとに、市独自で流水の調査をする（この点については、安東市長は、この点について、「市民の意見によって市の立ち会いを慎重に検討する。県と建設省の連携を要する」と説明している。

昭和38(1963)年12月22日 大分合同新聞 大分県立図書館 所蔵

昭和39(1964)年1月10日 大分合同新聞 大分県立図書館 所蔵









# 別府市水道のあゆみ

## 第7期 拡張事業 ※ 第1次変更を含む

昭和50(1975)年4月1日～昭和56(1981)年3月31日

計画給水区域	鶴見・堀田・ <sup>うちかまど</sup> 内竈簡易水道を上水道に編入
計画給水人口	140,000人
計画1人1日最大給水量	670ℓ
計画1日最大給水量	94,000m <sup>3</sup>
計画事業費	3,045,969千円
事業認可	昭和50(1975)年3月31日



タタラ水源地 さく井工事中【写真：昭和51(1976)年頃】

### 遠方監視制御装置を設置

昭和50(1975)年は、『第6期 拡張事業』の目標年度にあたり、慢性的な給水不足からは抜け出せたものの、高地地区の開発や第2次ベビーブーム(1971-1974年)による人口の増加、また、県・近隣市町とともに計画を行っていた広域的<sup>くにさき</sup>水源開発「国東用水事業」準備・修正を図るため、目標を昭和55年度として、昭和50年3月に認可を受け、着工しました。

### 事業の概要

『第7期 拡張事業』は、鶴見(250m<sup>3</sup>/日)、堀田(1,500m<sup>3</sup>/日)、<sup>うちかまど</sup>内竈(51m<sup>3</sup>/日)簡易水道を上水道へ統合し、緊急度や経済性を加味して、工期を2期に分け、5つの主な事業を実施しています。

#### 第1期工事

工期 昭和50(1975)年4月～昭和52(1977)年3月

計画工事費 1,123,829千円

#### ① タタラ・<sup>くろつど</sup>蔵人水源の開発

別府市開発公社の<sup>くろつど</sup>蔵人水源地(湧水)から1,500m<sup>3</sup>/日の原水を扇山浄水場に送り、また、新たに深井戸2箇所をさく<sup>せい</sup>井し、3,000m<sup>3</sup>/日のタタラ水源地の開発を行いました。

#### ② 扇山浄水場増設

<sup>くろつど</sup>蔵人水源地から原水を受水するため、緩速ろ過池(3池→4池)、配水池(1池→2池)をそれぞれ増設しました。



タタラ配水池【写真：昭和51(1976)年頃】

#### ③ <sup>ぬくみ</sup>温水水源施設改良

湧水を滅菌処理していましたが、通常のPH値が低く水質保全の上で適切な処理が行われていた程度であったため、ばっ気室を建設し、水質保全の向上を目指すとともに、水系のポンプ類の交換や自動化を図りました。



温水水源地 ばっ気室【写真：昭和52(1977)年頃】

# 別府市水道のあゆみ

## 第2期工事

工期 昭和53(1978)年4月～昭和56(1981)年3月

計画工事費 1,922,140千円

### ④ 朝見浄水場施設改良

今後における維持管理の集約化を図るため、老朽化と設備不良が著しくなった<sup>あやがほり</sup>点返浄水場を廃止し、朝見浄水場で処理を行うようにしました。その浄水量を補完するため、朝見浄水場において、2/3は急速ろ過方式により、残りの1/3は緩速ろ過方式により行っていました。これを急速ろ過方式に統一しました。



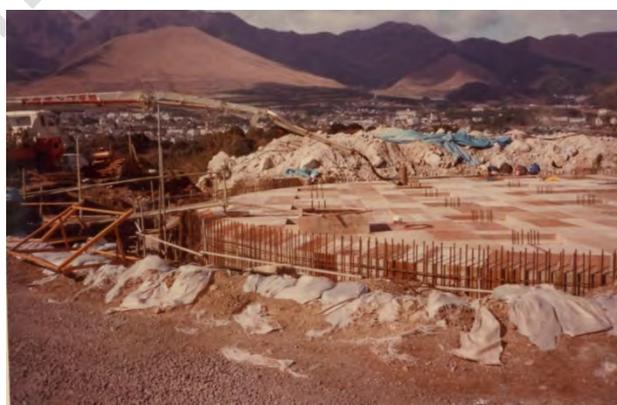
朝見浄水場 送水管 布設工事中【写真：昭和56(1981)年頃】



実相寺低区配水池・ポンプ室【写真：昭和56(1981)年頃】



朝見浄水場 着水井・急速搅拌池【写真：昭和56(1981)年頃】



実相寺高区配水池 建設工事中【写真：昭和56(1981)年頃】



朝見浄水場 フロック形成池・薬品沈でん池・急速ろ過池  
【写真：昭和56(1981)年頃】

さらに、市内各所に点在するポンプ施設の管理の一元化を図るため、朝見浄水場に遠方監視制御装置を設置し、温水水系・実相寺水系のポンプの運転や配水管理を可能にしました。

### ⑤ 実相寺系送配水施設

朝見水系の末端である上野口地区に西野口ポンプ室を建設し、実相寺に新設する<sup>じっそうじ</sup>実相寺低区配水池に向けて圧送し、標高100m以下の東荘園や石垣地区に配水できるようにしました。また、この配水池に隣接して<sup>じっそうじ</sup>実相寺ポンプ室を建設し、これも新設する<sup>じっそうじ</sup>実相寺高区配水池へ圧送し、標高100～150mに位置する荘園・新別府地区に配水できるようにしました。



# 別府市水道のあゆみ

## 第7期 拡張事業 第2次変更

昭和61(1986)年11月1日～昭和63(1988)年3月31日

計画給水区域	明礬・小坂簡易水道を上水道に編入
計画給水人口	140,000人
計画1人1日最大給水量	664ℓ
計画1日最大給水量	93,000m <sup>3</sup>
計画事業費	142,000千円
事業認可	昭和62(1987)年1月8日

### 市街化区域の変更

別府市の人口は、昭和54(1979)年度をピークに減少し始めました。この要因として、観光客、特に宿泊客の減少に伴うサービス従業員の別府市離れや近年、別府市では大型団地開発がなかったため、住宅を得ようとした人達が、開発を行っている隣接市へ移動していることなどが考えられました。その結果、給水能力としては湧水等の減少は若干みられたものの、全体的には安定給水が確保できる見通しでした。

しかし、昭和60(1985)年、別府市国際観光温泉文化都市建設計画に係る市街化区域の整備に伴い、給水区域の拡張の必要が生じたため、目標を昭和70年度として、昭和62年1月に認可を受け、着工しました。

### 事業の概要

明礬（みょうばん 稼川湧水：280m<sup>3</sup>/日）、小坂（かさごがわ 小坂地下水：400m<sup>3</sup>/日）簡易水道を上水道に統合し、同時に新規水源（扇山第1地下水（600m<sup>3</sup>/日）、扇山第2地下水（1,300m<sup>3</sup>/日）、たなかぼる 多中原地下水（1,000m<sup>3</sup>/日））を開発しました。



小坂水源地【写真：昭和57(1982)年頃】

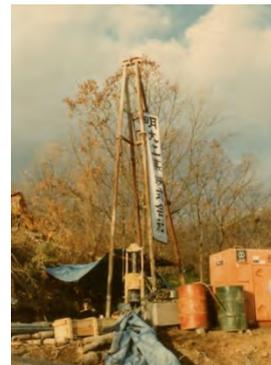
この時に取得した<sup>みょうばん</sup>明礬湧水（220m<sup>3</sup>/日）は、認可漏れであったため、『第7期 拡張事業 第3次変更』で加えています。



稼川配水池【写真：昭和56(1981)年頃】



多中原水源地 さく井工事中  
【写真：昭和52(1977)年頃】



扇山第1水源地 さく井工事中  
【写真：昭和54(1979)年頃】



扇山第2水源地【昭和60(1985)年頃】

また、維持管理体制の基本となる水質検査体制の整備を行いました。

# 別府市水道のあゆみ

## 温水水系送配水施設整備事業

北部地区の大型開発に伴う給水不足の解消、また、朝見水系と温水水系ライフライン機能の充実により、双方の渇水時や災害時におけるバックアップ体系を整備するとともに、経済効率の良い水供給を行うことを目的に、平成元(1989)年から6カ年の継続事業として施行しました。

工期 平成元(1989)年4月～平成7(1995)年3月

事業費 2,164,953千円



影の木配水池【写真：平成3(1991)年頃】



御越配水池【写真：平成3(1991)年頃】

## 8大事業

水需要の低迷による料金収入が伸び悩む中、21世紀に向けて“災害に強い街づくり”、“子や孫の代までもが安心して使える水”の体制を確立し、高水準の水道の構築を目指すため、水道料金を改定し、8つの主な事業を実施しました。

工期 平成9(1997)年4月～平成13(2001)年3月

事業費 5,983,460千円

### ① 汚泥処理施設建設事業

工期 平成10(1998)年3月～平成10(1998)年12月

事業費 265,485千円

排水汚泥処理については、<sup>てんびかんそうしょう</sup>天日乾燥床(4床)により行っていましたが、平成2(1990)年2月に濃縮槽を建設し、浄水処理の効率化が図られたものの、季節や天候に左右され計画的な処分ができていませんでした。

また、増床は用地的に不可能であったため、<sup>てんびかんそうしょう</sup>天日乾燥床(No.4)を取り壊し、機械脱水処理施設を建設することにより、浄水処理のより一層の効率化を図ることができました。



朝見浄水場 機械脱水機棟【写真：平成10(1998)年頃】

### ② 鮎返配水池増設事業

工期 平成9(1997)年9月～平成10(1998)年3月

事業費 1,115,521千円

アメリカ占領軍専用水道として昭和21(1946)年に建設され、昭和29年に譲渡を受けた<sup>あゆがえり</sup>鮎返配水池は、貯水量が小さく、経年による老朽化が目立ち始めました。そこで、市内高地地区の一層の安定給水を図るため、より高い位置に容量の大きい配水池を新設し、同じく経年化していた送水ポンプ施設も移設しました。



# 別府市水道のあゆみ

また、新配水池の流出管には緊急遮断弁を設置し、地震時などに流出管が破壊されても貯水槽として飲料水が確保できるようになっています。



新給配水池【写真：平成10(1998)年頃】

### ③ 鮎返ダム改良工事

工期 平成12(2000)年8月～平成13(2001)年1月

事業費 201,256千円

アメリカ占領軍専用水道として昭和23(1948)年3月に建設され、昭和29年に譲渡を受けた鮎返<sup>あゆがえり</sup>ダムは、完成後40年以上が経過し、平成6(1994)年に機能診断を行ったところ、ダム本体の構造上には問題はないものの、コンクリートの表面劣化や一部浸透が見受けられ、ダム本体の表面補修、歩廊などの改修が必要となったため、着工しました。



鮎返ダム 改良工事中【写真：平成13(2001)年頃】

また、ダムの堆砂除去なども必要であったため、工事を行いました。

工期 平成15(2003)年9月から平成18(2006)年3月

事業費 146,029千円



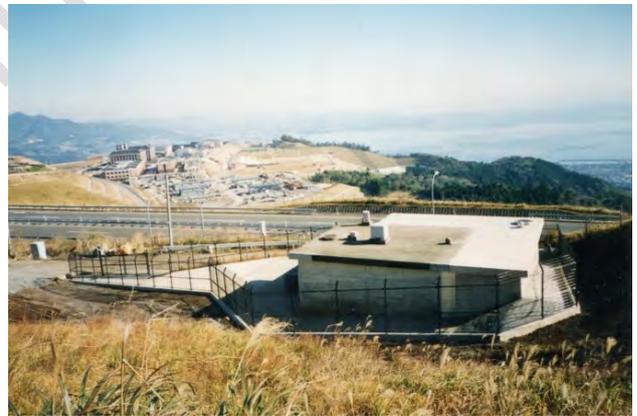
鮎返ダム【写真：平成13(2001)年頃】

### ④ 立命館アジア太平洋大学関連事業

工期 平成9(1997)年4月～平成11(1999)年12月

事業費 130,907千円

湯山簡易水道を拡張し、平成12(2000)年、十文字原に開校する立命館アジア太平洋大学へ給水するため、工区を4区に分けて着工しました。内容としては、湯山第2配水池を増設、湯山第3配水池を新設し、送水管を布設しました。



湯山第2配水池【写真：平成11(1999)年頃】



湯山第3配水池【写真：平成11(1999)年頃】

# 別府市水道のあゆみ

## ⑤ 基幹施設耐震補強事業

工 期 平成9(1997)年4月～平成13(2001)年3月

事業費 486,378千円

平成7(1995)年から3カ年で行った水道施設耐震評価調査において、基幹施設である配水池やポンプ室などが、老朽の度合いが大きく大規模な改修又は耐震補強が必要と判断されたため、電気・機械設備などの更新とあわせて着工しました。



野口原電気室【写真：平成12(2000)年頃】

## ⑥ 朝見浄水場既存施設更新事業

工 期 平成9(1997)年4月～平成13(2001)年3月

事業費 909,114千円

基幹浄水場である朝見浄水場内の経年化した施設や設備について、更新などを行い、安全な浄水処理能力と安定した給水体制の持続・向上を図るため、着工しました。

なかでも、大分川（別府発電所分水槽）から取水する900mm導水管は経年化が目立ち、平成9(1997)年の台風19号では、あゆがえり 鮎返川の増水により河川水、岩や倒木が水管橋部分にかすめる状況であったため、安全な場所に布設替を行いました。



朝見浄水場 900mm導水管【写真：平成11(1999)年頃】

## ⑦ 施設購入事業

工 期 平成9(1997)年4月～平成13(2001)年3月

事業費 1,251,070千円

市内各所にあるポンプ場内の電源盤などの取替（更新）工事で遠方監視設備を増設しました。

また、おぐら 小倉配水池の給水不足を補い、高地地区の安定給水を図るために水量に余裕のある<sup>おおいしほる</sup> 大石原水系の奥山田配水池に送水ポンプ施設を建設しました。



奥山田配水池 送水施設【写真：平成10(1998)年頃】

## ⑧ 配水管整備事業

工 期 平成9(1997)年4月～平成13(2001)年3月

事業費 1,272,920千円

市内各所において、緊急性や経済性を加味し、配水管（新設：1万1,990.5m、布設替：8,704.6m）を布設しました。

既存施設更新事業や配水管整備事業などは、今後も終わることなく継続していかなければならない事業であり、別府市の水道事業が「拡張の時代」から「維持管理の時代」へとシフトしているのがわかります。

また、平成7(1995)年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」を受けて、施設の耐震補強や給水車の配備など、災害対策にも重点を置いています。



# 別府市水道のあゆみ

## 第7期 拡張事業 第3次変更

平成16(2004)年4月1日～平成30(2018)年3月31日

計画給水区域	湯山簡易水道を上水道に編入
計画給水人口	126,800人
計画1人1日最大給水量	564ℓ
計画1日最大給水量	71,500m <sup>3</sup>
計画事業費	15,803,314千円
事業認可	平成15(2003)年9月29日

### 水質低下などへの対応

変更認可後約16年が経過し、①山間部の給水区域の見直し ②地下水の取水量の低下 ③一部湧水の水質低下の可能性 ④これらに対応した水源の廃止・開発 ⑤ろ過施設導入による浄水方法の変更 ⑥<sup>あゆがえり</sup>鮎返川の水利権取得に伴う取水量変更の必要性などの問題が生じたため、目標を平成29(2017)年度として、平成15年9月に認可を受け、着工しました。

### 事業の概要

湯山（湯山湧水：1,840m<sup>3</sup>/日）簡易水道を上水道に統合し、同時に新規水源として湯山地下水（600m<sup>3</sup>/日）、大石原地下水（2,000m<sup>3</sup>/日）、<sup>かんばら</sup>寒原地下水（500m<sup>3</sup>/日）を開発しました。

また、前回の変更認可で申請漏れであった<sup>みょうぼん</sup>明礬湧水（220m<sup>3</sup>/日）も追加しています。



湯山水源地 さく井工事中【写真：平成10(1998)年頃】

これに合わせ、既存水源の<sup>ぬくみ</sup>温水地下水（4,020m<sup>3</sup>/日）、<sup>うちかまど</sup>観海寺湧水（1,020m<sup>3</sup>/日）、<sup>かせごがわ</sup>内電湧水（51m<sup>3</sup>/日）、<sup>かせごがわ</sup>稼川湧水（280m<sup>3</sup>/日）、<sup>かんばら</sup>寒原湧水（150m<sup>3</sup>/日）の全部と<sup>ぬくみ</sup>温水湧水の一部（1万3,790m<sup>3</sup>/日）を廃止しました。

また、湯山・<sup>ぬくみ</sup>温水水源地の浄水方法を膜ろ過方式に変更し、水質の向上を図りました。



湯山浄水場【写真：平成17(2005)年頃】



湯山送水ポンプ【写真：平成11(1999)年頃】



湯山浄水場内 膜プラント【写真：平成17(2005)年頃】

# 別府市水道のあゆみ



温水浄水場【写真：平成19(2007)年頃】



朝見浄水場【写真：平成22(2010)年頃】



温水浄水場内 膜プラント【写真：平成19(2007)年頃】

温水水源の一部を廃止したことに伴い、水系を朝見水系に変更し高地地区の水源を有効利用するために、ポンプ施設や配水池を新設しました。



大石原電気室【写真：平成19(2007)年頃】



西鉄輪配水池【写真：平成23(2011)年頃】



西野口ポンプ室【写真：平成27(2015)年頃】



朝日2号配水池【写真：平成27(2015)年頃】

なお、今回の変更では、計画給水人口が水道創設以降初めての減少となっています。



# 別府市水道のあゆみ

## 第8期 拡張事業

平成29(2017)年4月1日～平成43(2031)年3月31日

計画給水区域	天間・城島簡易水道を上水道に編入
計画給水人口	118,100人
計画1人1日最大給水量	509ℓ
計画1日最大給水量	60,100m <sup>3</sup>
計画事業費	10,751,143千円
変更届出	平成29(2017)年3月24日

### 安全・強靱・持続

唯一の簡易水道となっていた天間(44m<sup>3</sup>/日)・城島(21m<sup>3</sup>/日)簡易水道を上水道に統合し、目標を平成42年度として、平成29年3月に変更届出を提出し、着工しています。

これにより、別府市は水道事業のみとなっています。

### 事業の概要

既存水源の春木川表流水(250m<sup>3</sup>/日)、明礬湧水(220m<sup>3</sup>/日)、多中原地下水(250m<sup>3</sup>/日)を廃止しています。

また、変更届出にあわせ、「人口や観光等の社会環境」や水道事業の「水需要や水道施設の現状」「水道水の水質」「経営状況」「国の制度改正等による取り巻く環境」などに基づき、現状の検証を行い、水道事業のあるべき姿である「安全・強靱・持続」を基本理念として、基本計画書を策定しています。

### 水道施設の概要

平成29(2017)年4月時点における水道施設を水系ごとにご紹介します。

水源：16(水系：11、ダム：2)

配水池：29 送水ポンプ施設：11

#### ① 朝見水系

水源：大分川表流水(51,840m<sup>3</sup>/日)

鮎返川表流水(2,000m<sup>3</sup>/日)

乙原川表流水(4,406m<sup>3</sup>/日)



鮎返ダム 貯水容量：47,765m<sup>3</sup>【昭和23(1948)年3月築造】



乙原ダム 貯水容量：5,400m<sup>3</sup>【大正6(1917)年3月築造】



朝見浄水場 浄水能力：58,000m<sup>3</sup>/日【昭和44(1969)年6月築造】  
浄水方法：急速ろ過



朝見1系配水池 有効容量：3,328m<sup>3</sup>【昭和2(1927)年11月築造】



朝見2系配水池 有効容量：11,250m<sup>3</sup>【昭和44(1969)年6月築造】

# 別府市水道のあゆみ



実相寺高区配水池 有効容量：3,000m<sup>3</sup>【昭和56(1981)年1月築造】



鶴見原配水池 有効容量：2,000m<sup>3</sup>【昭和48(1973)年5月築造】



実相寺低区配水池 有効容量：2,000m<sup>3</sup>【昭和55(1981)年12月築造】



西野口送水ポンプ 送水能力：10,000m<sup>3</sup>/日【平成27(2015)年3月築造】



新鮎返配水池 有効容量：6,000m<sup>3</sup>【平成11(1999)年2月築造】



鮎返送水ポンプ 送水能力：16,000m<sup>3</sup>/日【平成11(1999)年3月築造】



鮎返配水池 有効容量：1,500m<sup>3</sup>【昭和21(1946)年11月築造】



野口原送水ポンプ 送水能力：8,000m<sup>3</sup>/日【昭和47(1972)年3月築造】



莊園配水池 有効容量：4,000m<sup>3</sup>【昭和47(1972)年6月築造】



莊園送水ポンプ 送水能力：4,300m<sup>3</sup>/日【昭和48(1973)年3月築造】



# 別府市水道のあゆみ

## ② おおきやま 扇山水系

水源：<sup>さかいがわ</sup>境川表流水 (3,090m<sup>3</sup>/日)

<sup>くろと</sup>蔵人湧水 (1,000m<sup>3</sup>/日)

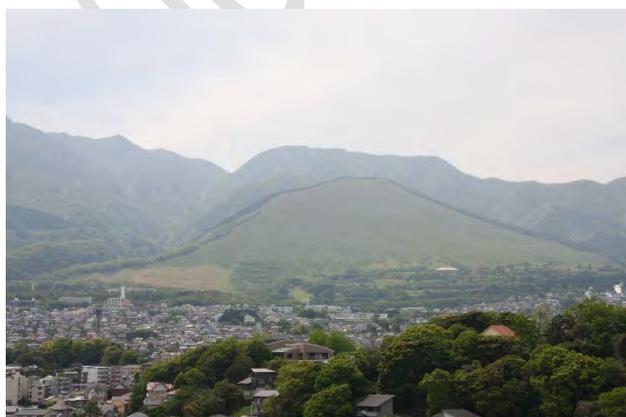
<sup>おおきやま</sup>扇山第2地下水 (1,300m<sup>3</sup>/日)



扇山浄水場 浄水能力：5,040m<sup>3</sup>/日【昭和43(1968)年9月築造】  
浄水方法：緩速ろ過



扇山1号・2号配水池 有効容量：2,000m<sup>3</sup>【昭和43(1968)年9月築造】



実相寺高区配水池から見た「扇山」

## ③ ゆやま 湯山水系

水源：<sup>ゆやま</sup>湯山湧水 (1,840m<sup>3</sup>/日)

<sup>ゆやま</sup>湯山地下水 (600m<sup>3</sup>/日)



湯山浄水場 浄水能力：1,840m<sup>3</sup>/日【平成18(2006)年3月築造】  
浄水方法：膜ろ過(湧水)  
浄水能力：560m<sup>3</sup>/日【平成11(1999)年3月築造】  
浄水方法：滅菌のみ(地下水)



湯山第1配水池 有効容量：28m<sup>3</sup>【平成6(1994)年2月築造】



湯山第2配水池 有効容量：194m<sup>3</sup>【平成元(1989)年3月築造】



湯山第3配水池 有効容量：200m<sup>3</sup>【平成11(1999)年12月築造】

# 別府市水道のあゆみ



十字原配水池 有効容量：13.5m<sup>3</sup>【平成28(2016)年3月築造】



湯山送水ポンプ 送水能力：1,170m<sup>3</sup>/日【平成11(1999)年3月築造】



西鉄輸配水池 有効容量：100m<sup>3</sup>【平成23(2011)年4月築造】



朝日1号配水池 有効容量：1,000m<sup>3</sup>【昭和50(1975)年3月築造】



朝日2号配水池 有効容量：500m<sup>3</sup>【平成27(2017)年3月築造】



東鉄輸配水池 有効容量：1,000m<sup>3</sup>【昭和42(1967)年6月築造】



十字原配水池から見た「高崎山」



十字原配水池から見た「立命館アジア太平洋大学」



# 別府市水道のあゆみ

## ④ 温くみ水系

水源：温くみ湧水（3,000m<sup>3</sup>/日）



温水浄水場 浄水能力：3,000m<sup>3</sup>/日【平成19(2007)年3月築造】  
浄水方法：膜ろ過



影ノ木配水池 有効容量：6,200m<sup>3</sup>【平成3(1991)年3月築造】



御越配水池 有効容量：800m<sup>3</sup>【平成3(1991)年3月築造】



温水送水ポンプ 送水能力：10,000m<sup>3</sup>/日【昭和52(1977)年6月築造】



影の木送水ポンプ 送水能力：2,700m<sup>3</sup>/日【平成6(1994)年9月築造】

## ⑤ タタラ水系

水源：タタラ地下水（3,000m<sup>3</sup>/日）



タタラ水源地 浄水能力：3,000m<sup>3</sup>/日【平成21(2009)年8月築造】  
浄水方法：滅菌のみ



タタラ配水池 有効容量：2,000m<sup>3</sup>【昭和51(1976)年3月築造】



タタラ送水ポンプ 送水能力：3,000m<sup>3</sup>/日【昭和51(1976)年3月築造】



朝見浄水場から見た「ピーコンプラザ グローバルタワー」

# 別府市水道のあゆみ

## ⑥ かんばら 寒原水系

水源：寒原地下水（500m<sup>3</sup>/日）



寒原水源地 浄水能力：500m<sup>3</sup>/日【平成6(1994)年3月築造】  
浄水方法：滅菌のみ



堀田配水池 有効容量：63m<sup>3</sup>【昭和36(1961)年12月築造】



平畑配水池 有効容量：100m<sup>3</sup>【昭和53(1978)年3月築造】

## ⑦ おおきやま 扇山第1水系

水源：扇山第1地下水（600m<sup>3</sup>/日）



扇山第1水源地 浄水能力：600m<sup>3</sup>/日【昭和55(1980)年1月築造】  
浄水方法：滅菌のみ



小倉配水池 有効容量：245m<sup>3</sup>【昭和63(1988)年3月築造】



新明岩配水池 有効容量：100m<sup>3</sup>【平成20(2008)年3月築造】



明砦送水ポンプ 送水能力：280m<sup>3</sup>/日【平成16(2004)年3月築造】



# 別府市水道のあゆみ

## ⑧ おさか 小坂水系

水源：おさか地下水（400m<sup>3</sup>/日）



小坂水源地 浄水能力：400m<sup>3</sup>/日【平成24(2012)年3月築造】  
浄水方法：減菌のみ



小坂配水池 有効容量：180m<sup>3</sup>【平成8(1996)年3月築造】



新給返配水池の「桜の木」

## ⑨ おおいしほる 大石原水系

水源：おおいしほる地下水（2,000m<sup>3</sup>/日）



大石原水源地 浄水能力：2,000m<sup>3</sup>/日【昭和57(1982)年6月築造】  
浄水方法：減菌のみ



奥山田配水池 有効容量：848m<sup>3</sup>【昭和57(1982)年6月築造】



大石原送水ポンプ 送水能力：2,000m<sup>3</sup>/日【昭和57(1982)年6月築造】



奥山田送水ポンプ 送水能力：1,600m<sup>3</sup>/日【平成11(1999)年3月築造】

# 別府市水道のあゆみ

## ⑩ 天間水系

水源：天間地下水（5.7 m<sup>3</sup>/日）



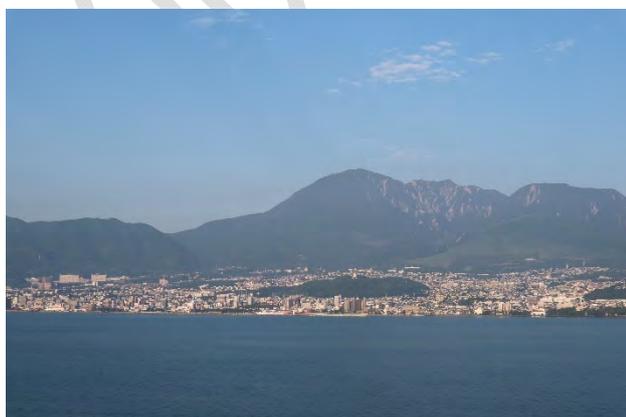
天間浄水場 浄水能力：5.3 m<sup>3</sup>/日【平成16(2004)年3月築造】  
浄水方法：急速ろ過（圧力式）



天間1号配水池 有効容量：1.8 m<sup>3</sup>【昭和34(1959)年12月築造】



天間2号配水池 有効容量：2.0 m<sup>3</sup>【昭和61(1986)年11月築造】



別府湾から見た「別府市全景」

## ⑪ 城島水系

水源：城島地下水（6.3 m<sup>3</sup>/日）



城島水源池 浄水能力：5.7 m<sup>3</sup>/日【平成21(2009)年1月築造】  
浄水方法：滅菌のみ



城島配水池 有効容量：2.2 m<sup>3</sup>【平成21(2009)年1月築造】

これまでで分かるように、別府市には水源となる大きな河川がなく、創設時から人口の増加に比例し、水需要に応じて拡張を行ってきました。

別府市は、扇状地ということもあり、給水区域の標高は、0 mから約400 mと高低差が大きく、加圧設備や減圧設備、配水池などの配水施設を適切な場所に配置することで、安定給水を行ってきました。そのため、送・配水設備が多く、配水区域の設定や施設の運転が非常に難しいものとなっています。

今後は、人口の減少が予想され、別府市においても例外ではありません。

また、平成23(2011)年3月11日に発生した「東日本大震災」や平成28(2016)年4月14日・16日発生した「熊本地震」のように自然災害は、いつ・どこで発生するかは誰にもわかりません。

私たち職員は、拡張期に建設された多くの水道施設を改良・更新していく中で、経済性を発揮しながら「安心して飲める水」「災害に強い水道施設」を『次の100年』へ引き継げるよう、努力していきます。

# 別府市水道施設概要図 S=1/17,500

注) 地図の都合上、標記のできない箇所有  
 原図A0一縮小A3

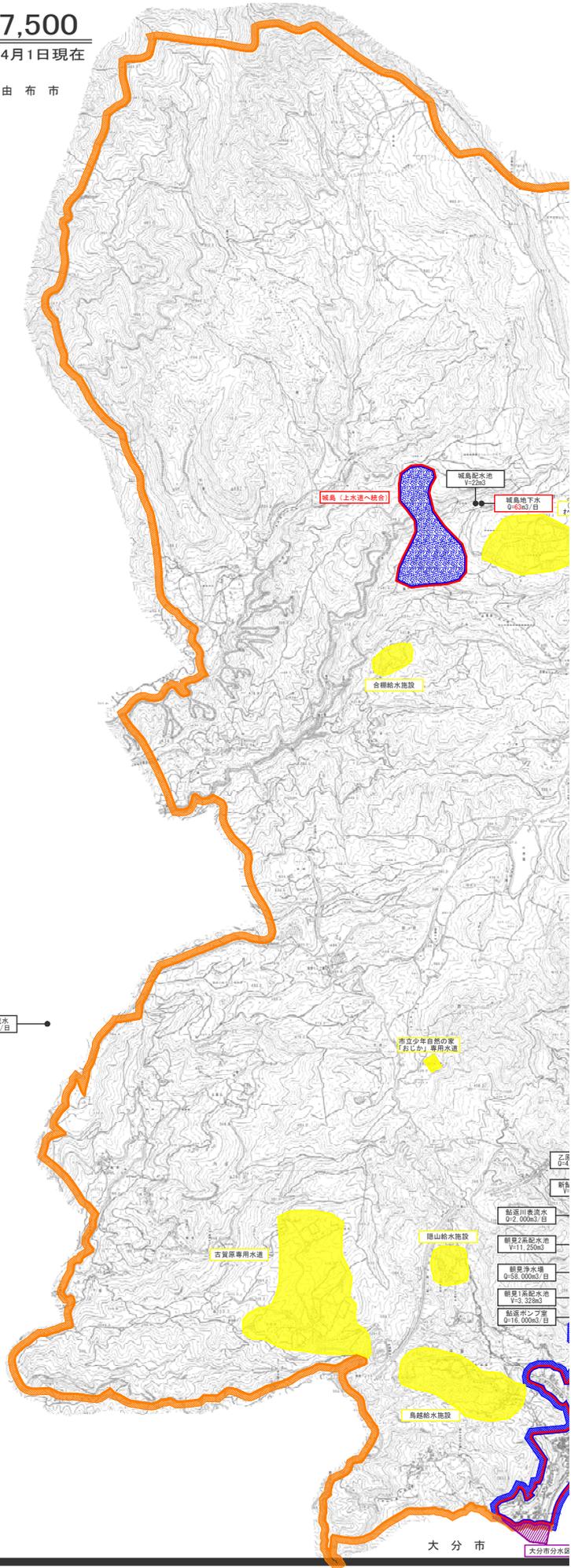
平成29年4月1日現在

由布市

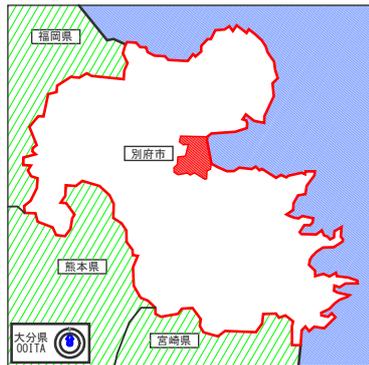


## 凡例

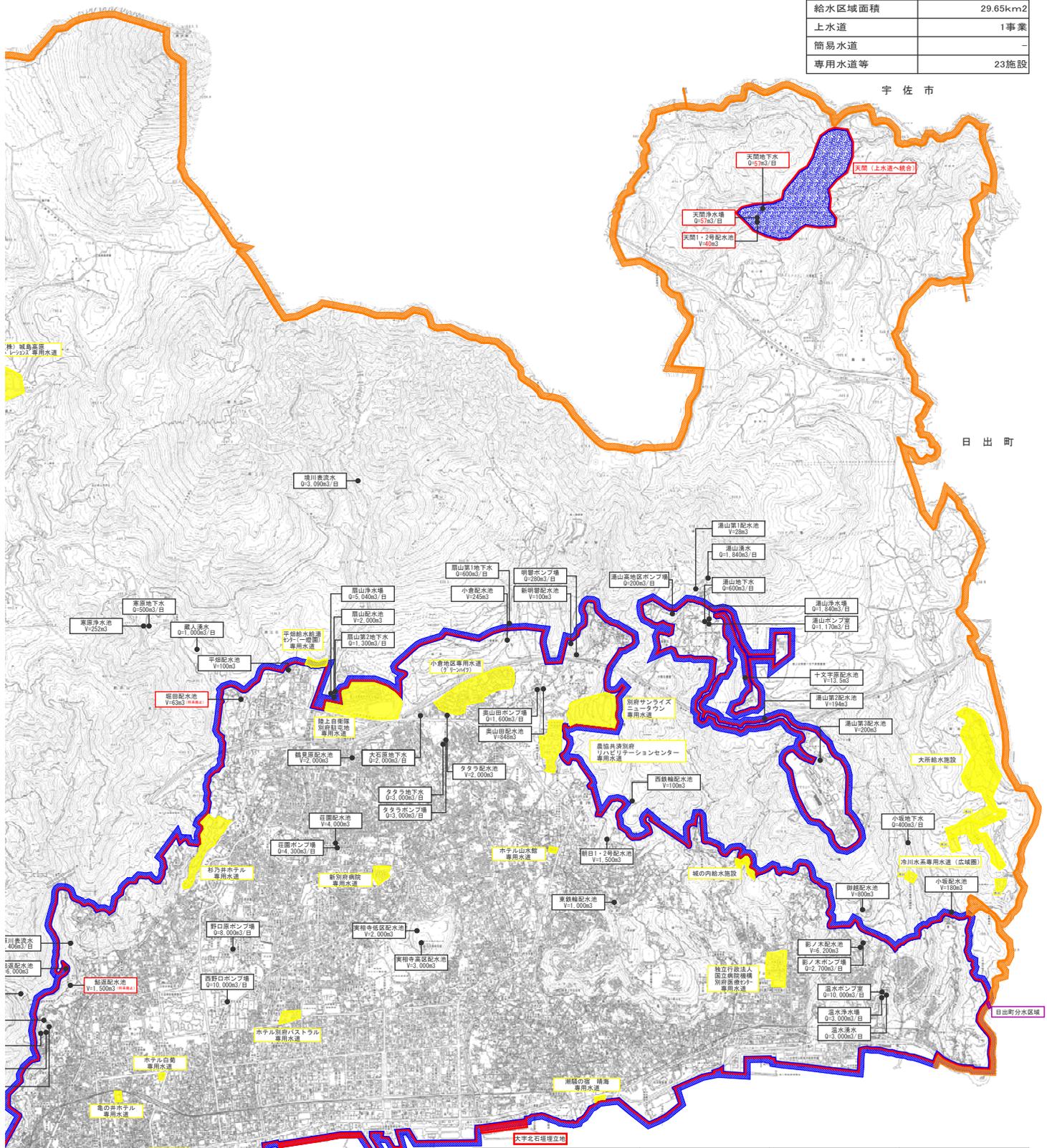
(茶色)	行政区域
(青色)	既認可給水区域
(緑色)	簡易水道の給水区域
(赤色)	新設・拡張区域
(黄色)	専用水道等の位置
(紫色)	分水している区域



## 位置図



創設認可日	大正2年7月11日
給水開始日	大正6年4月1日
法適用年月日	昭和28年1月1日
直近届出日	平成29年3月24日
届出目標年度	平成42年度
行政区域面積	125.34km <sup>2</sup>
給水区域面積	29.65km <sup>2</sup>
上水道	1事業
簡易水道	-
専用水道等	23施設



宇佐市

日出町

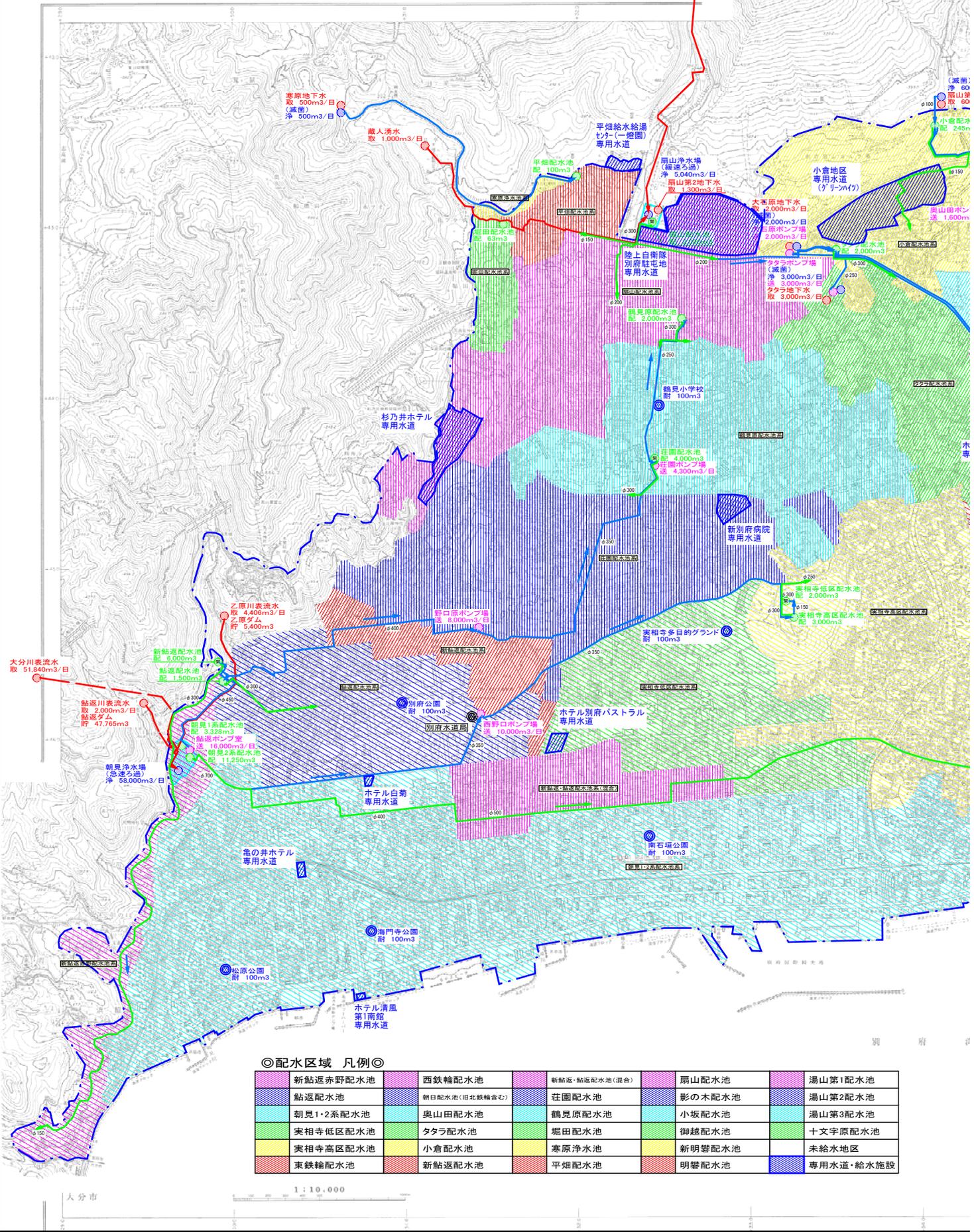
項目	目標年度値 (平成42年度 計画値)	届出値 (平成29年度 計画値)	現在値 (平成26年度 実績値)
行政区域内人口(人)	111,728人	119,602人	120,185人
給水区域内人口(人)	110,887人	118,702人	119,280人
給水人口(人)	110,887人	118,100(118,014)人	118,425人
普及率(%)	100.00%	99.42%	99.28%
一日最大給水量(m <sup>3</sup> /日)	52,790m <sup>3</sup> /日	60,100(60,040)m <sup>3</sup> /日	57,250m <sup>3</sup> /日
一人一日最大給水量(ℓ/人・日)	476ℓ/人・日	509ℓ/人・日	483ℓ/人・日
公称施設能力(m <sup>3</sup> /日)	75,060m <sup>3</sup> /日	75,060m <sup>3</sup> /日	75,734m <sup>3</sup> /日

- (枠外)
- ・天間・城島 (上水道へ統合)
- ・(株)城島高原オレシオンズ専用水道
- ・別府市古賀原専用水道
- ・市立少年自然の家「おじか」専用水道
- ・冷川水系専用水道 (広域圏)
- ・隴山給水施設
- ・鳥越給水施設
- ・合柳給水施設

# 水系別給水区域図 S=1/10,000

注) 地図の都合上、標記のできない箇所有  
原図A0一縮小A3

平成29年4月1日現在

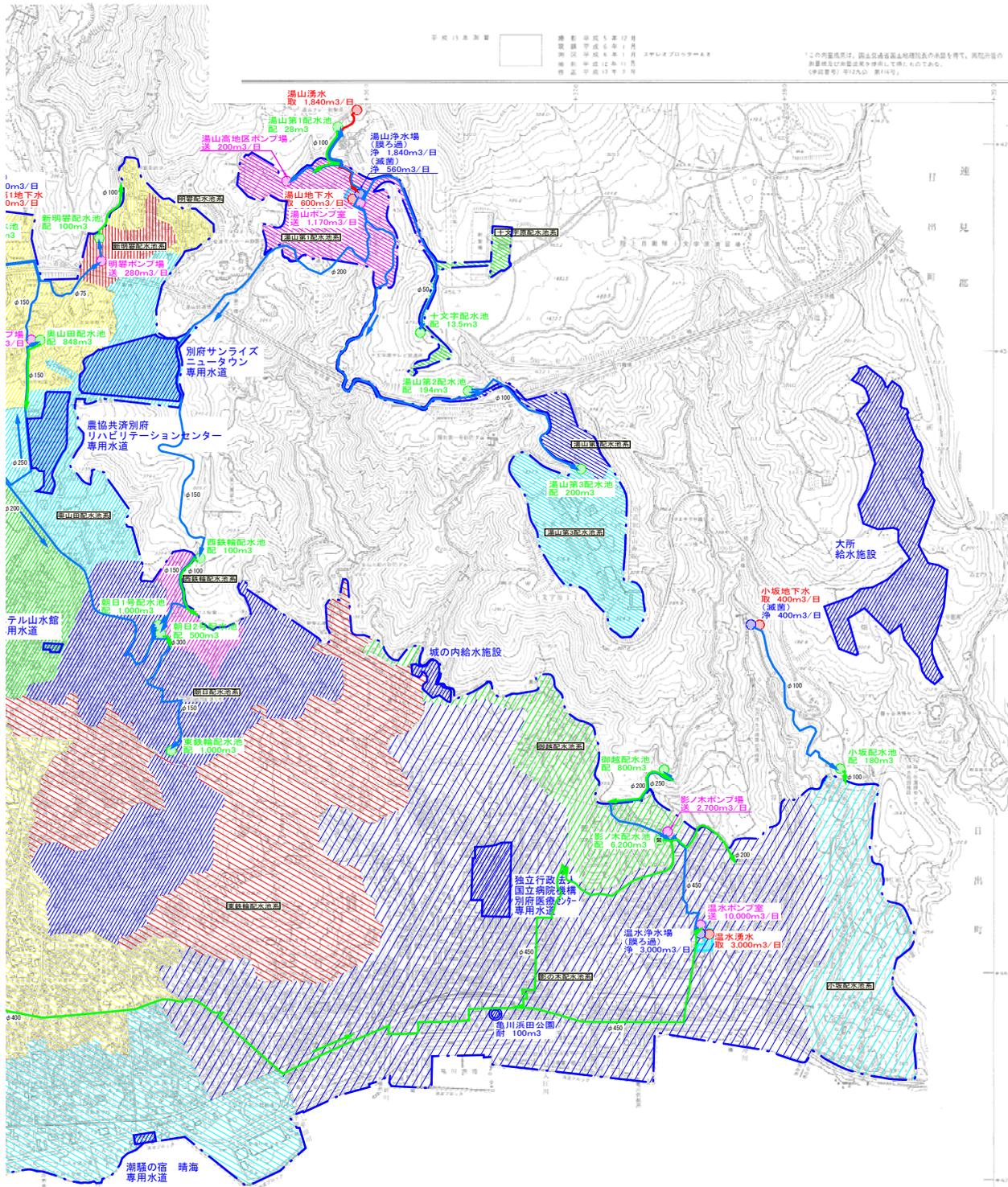


### ◎配水区域 凡例◎

新點返赤野配水池	西鉄輸配水池	新點返・點返配水池(混合)	扇山配水池	湯山第1配水池
點返配水池	朝日配水池(旧北鉄輸送用)	莊園配水池	影の木配水池	湯山第2配水池
朝見1・2系配水池	奥山田配水池	鶴見原配水池	小坂配水池	湯山第3配水池
実相寺低区配水池	タタラ配水池	堀田配水池	御越配水池	十字原配水池
実相寺高区配水池	小倉配水池	寒原浄水池	新明鑾配水池	未給水地区
東鉄輸配水池	新點返配水池	平畑配水池	明鑾配水池	専用水道・給水施設

大分市

1 : 10,000



行政区域  
大分県  
湯川町



記号

- 水源・取水・導水・貯水施設
- 浄水施設
- 送水施設
- 配水施設
- 浄水場
- 飲料水兼用型耐震性貯水槽(100m³)
- 導水管
- 送水管
- 配水本管

◎凡例◎

● 上水道事業(給水区域)	
○ 水源・取水・導水・貯水施設	(例) 本分川湧水 一施設名取 取 51,840m³/日一総取水量
○ 浄水施設	(例) 湯山浄水場 一施設名取 (湯山通浄) 一浄水方法 浄 58,000m³/日一浄水能力
○ 送水施設	(例) 湯山ポンプ場 一施設名取 送 2,700m³/日一送水能力
○ 配水施設	(例) 朝日配水池 一施設名取 配 6,000m³/日一配水能力
○ 浄水場	(例) 湯山浄水場 一施設名取 (湯山通浄) 一浄水方法 浄 58,000m³/日一浄水能力
○ 飲料水兼用型耐震性貯水槽(100m³)	
→ 導水管	
→ 送水管	
→ 配水本管	

NO. 1



# 水道年表

## 水道事業の動き

その年のあれこれ	西 暦	年 次	水道事業の動き	水源の開発など
別府 町制施行	1893	明治26年 4月11日		
別府町・浜脇町 合併	1906	明治39年 8月	水道布設計画立案	
	1913	大正 2年 7月11日	「創設」事業認可 期間：大正3(1914)年7月26日～大正6(1917)年3月31日	【新規】乙原川(表流水) 【新規】鮎返川(表流水)
	1917	大正 6年 4月 1日	給水開始	
別府市制 施行	1924	大正13年 4月 1日		
	1925	大正14年 7月31日	「第1期 拡張事業」認可 期間：大正15(1926)年2月6日～昭和2(1927)年11月3日	
	1935	昭和10年 9月 4日	亀川町・朝日村・石垣村を水道に編入	※【新規】温水(湧水) 【新規】湯山(湧水)
第2次世界大戦 開戦	1941	昭和16年 8月 4日	「第2期 拡張事業」認可 期間：昭和17(1942)年1月19日～昭和22(1947)年3月31日	※【改良・増】温水(湧水)
アメリカ軍 進駐	1946	昭和21年 8月	アメリカ占領軍専用水道の築造 期間：昭和21(1946)年8月～昭和23(1948)年3月	【接収】鮎返川(表流水)
	1948	昭和23年 2月25日	「第3期 拡張事業」認可 期間：昭和23(1948)年4月8日～昭和23(1948)年11月30日	※【新規】朝見川(表流水)
別府競輪場 開設 市立美術館 設置	1950	昭和25年 8月11日	「第4期 拡張事業」認可 期間：昭和26(1951)年3月20日～昭和30(1955)年3月31日	【改良・増】温水(湧水)
	1953	昭和28年 1月	地方公営企業法の適用(簡易水道は昭和39(1964)年4月から適用)	
	1954	昭和29年12月23日	アメリカ占領軍専用水道の一部を無償譲与	【譲与】鮎返川(表流水) 【廃止】朝見川(表流水)
アメリカ駐留軍 引揚げ	1957	昭和32年11月27日	明礬簡易水道 認可(計画給水人口：530人)	※【新規】明礬(湧水)
	1958	昭和33年 7月31日	内籠簡易水道 認可(計画給水人口：340人)	※【新規】内籠(湧水)
	1959	昭和34年 8月15日	天間簡易水道 認可(計画給水人口：230人) 城島簡易水道 認可(計画給水人口：140人)	※【新規】天間(湧水) ※【新規】城島(湧水)
市立図書館 設置	1961	昭和36年 7月25日	堀田簡易水道 認可(計画給水人口：880人)	※【新規】寒原(湧水)
別府ロープウェイ 開通	1962	昭和37年 4月 1日	「第5期 拡張事業」認可 期間：昭和37(1962)年4月1日～昭和39(1964)年3月31日	【新規】境川(表流水) ※【新規】観海寺(湧水)
		7月31日	鶴見簡易水道 認可(計画給水人口：1,400人)	※【新規】春木川(表流水)
	1963	昭和38年12月28日	「第6期 拡張事業」認可 期間：昭和39(1964)年4月1日～昭和44(1969)年6月30日	【新規】大分川(表流水) ※【新規】温水(地下水)
東京オリンピック	1964	昭和39年10月10日		
	1965	昭和40年10月11日	小坂簡易水道 認可(計画給水人口：403人) 湯山簡易水道 認可(計画給水人口：133人)	※【新規】小坂(表流水) ※【新規】湯山簡水(湧水)
第21回「大分国体」	1966	昭和41年 9月		
餅ヶ浜海岸埋立 完成	1967	昭和42年 4月	水道料金 改定(改定率：37.00%)	
		7月	水道部から水道局に変更。関西汽船国際観光港に事務所を移転	
市民憲章 制定	1968	昭和43年 4月	水道料金の銀行口座振替制を導入	
別府交通センター 開設	1971	昭和46年 4月	隔月検針・毎月徴収を開始	
学校給食センター 完成	1972	昭和47年 4月	水道料金 改定(改定率：28.89%)	
		11月	水道料金調定業務電算委託	
	1975	昭和50年 3月11日	堀田、鶴見簡易水道を廃止(上水道に統合)	
		31日	「第7期 拡張事業」認可 ※第1次変更を含む 期間：昭和50(1975)年4月1日～昭和56(1981)年3月31日	【新規】タタラ(地下水) 【新規】蔵人(湧水)
		11月	水道料金 改定(改定率：69.98%)	
	1976	昭和51年 6月	隔月検針・隔月徴収を開始	
		9月	旧鶴見園に事務所を移転	
	1977	昭和52年 4月27日	内籠簡易水道を廃止(上水道に統合)	
市民体育館 落成	1980	昭和55年 3月	明礬簡易水道を増強	※【新規】椽川(湧水)
		昭和55年 4月	水道料金 改定(改定率：41.00%)	



# 水道年表

その年のあれこれ	西 暦	年 次	水道事業の動き	水源の開発など
公設地方卸売市場 完成	1983	昭和58年 4月	荘園分室を廃止	
亀川バイパス 完成 市制60周年 記念式典	1984	昭和59年 3月30日	小坂簡易水道 変更認可	【新規】小坂(地下水) 【廃止】小坂(表流水)
		4月	水道料金 改定(改定率:29.41%) 旧宇和島運輸跡地に事務所を移転	
	1985	昭和60年 4月	別府分室を廃止	
	1986	昭和61年 4月	水道料金の郵便局口座振替制を導入	
		6月 1日	乙原ダムが近代水道百選に選ばれる(日本水道新聞社)	
別府大学駅 開業	1987	昭和62年 1月 8日	「第7期 拡張事業」 第2次変更認可 期間:昭和61(1986)年1月1日~昭和63(1988)年3月31日	【新規】扇山第1(地下水) 【新規】扇山第2(地下水) ※【新規】多中原(地下水)
		4月 1日	明礬・小坂簡易水道を廃止(上水道に統合)	
	1988	昭和63年 3月	野口原に水道局庁舎が完成、事務所を移転	
高速道路(湯布院間) 開通 別府湾SA 開設	1989	平成 元年 4月	「温水水系送配水施設整備事業」 期間:平成元(1989)年4月~平成7(1995)年3月	
高速道路(大分間) 開通	1992	平成 4年 4月	営業課業務、オンラインシステムを導入	
市制70周年 記念式典	1994	平成 6年 2月	湯山簡易水道 改良	【廃止】湯山簡水(湧水)
阪神・淡路大震災(M7.3)	1995	平成 7年 4月	水道料金の集金制を廃止	
消費税(3%→5%)	1997	平成 9年 3月	亀川分室を廃止	
		4月	水道料金 改定(改定率:39.47%) 「8大事業」 期間:平成9(1997)年4月~平成13(2001)年3月	
		9月 3日	配水池、配水池南・北出入口、集合井室、量水室が国の有形文化財に	
市制75周年 記念式典	1999	平成11年 4月	水道料金の福祉減免制度を開始	
		7月 1日	湯山簡易水道 変更認可(計画給水人口:718人)	
第50回「別大マラソン」	2001	平成13年 4月	下水道料金徴収事務を開始。新水道料金システムを導入 郵便局での納付制を開始	
べっぴんアリーナ 開設	2003	平成15年 3月	公式ホームページを開設	
		平成15年 9月28日	湯山簡易水道を廃止(上水道に統合)	
		29日	「第7期 拡張事業」 第3次変更認可 期間:平成16(2004)年4月1日~平成30(2018)年3月31日	【新規】湯山(地下水) 【新規】大石原(地下水) 【新規】寒原(地下水) 【廃止】温水(地下水) 【廃止】観海寺(湧水) 【廃止】内蔵(湧水) 【廃止】稼川(湧水) 【廃止】寒原(湧水) 【一部廃止】温水(湧水)
市制80周年 記念式典	2004	平成16年 1月 5日	天間簡易水道 変更認可	【新規】天間(地下水) 【廃止】天間(湧水)
		4月	企業会計、水栓台帳システムを導入 福祉減免制度から福祉還付制度に名称変更、対象枠を拡大	
		5月	災害対策用としてペットボトル「湯浴み水」を製造	
第63回「大分国体」	2008	平成20年 3月25日	天間簡易水道と城島簡易水道を統合 変更認可	【新規】城島(地下水) 【廃止】城島(湧水)
東日本大震災(M9.0)	2011	平成23年 4月	公式キャラクター「スイッキー」が誕生	
消費税(5%→8%)	2014	平成26年 1月	新水道料金システムを導入。コンビニエンスストア収納を開始	
熊本地震(M7.3)	2016	平成28年 4月16日	熊本地震により導水・配水施設などが被災(別府市は震度6弱)	
	2017	平成29年 3月24日	「第8期 拡張事業」変更届出 期間:平成29(2017)年4月1日~平成43(2031)年3月31日	【廃止】春木川(表流水) 【廃止】明礬(湧水) 【廃止】多中原(地下水)
10月18日		別府市水道100周年記念式典		

※ 後に廃止された水源を表しています。



# 水道年表

## 歴代水道企業管理者

昭和42(1967)年1月1日付け、地方公営企業法の一部改正に伴い、水道企業管理者を設置し、同年7月1日付け、水道部から水道局に名称を変更しています。

順	氏名	在職期間
初代	 友永 一六	昭和42(1967)年 1月 1日 から 昭和48(1973)年 7月31日
第2代	 友永 満	昭和48(1973)年 8月 1日 から 昭和52(1977)年 7月31日
第3代	 池辺 正年	昭和53(1978)年 4月 1日 から 昭和57(1982)年 3月31日
第4代	 佐々木 創造	昭和57(1982)年 4月 1日 から 昭和62(1987)年 7月 5日
第5代	 荒金 博	昭和62(1987)年 7月 6日 から 平成 元(1989)年 6月30日
第6代	 伊南 憲三	平成 元(1989)年 7月 1日 から 平成 5(1993)年 6月30日
第7代	 黒田 忍	平成 5(1993)年 7月12日 から 平成 7(1995)年 6月 8日

順	氏名	在職期間
第8代	 外山 健一	平成 7(1995)年 7月 1日 から 平成12(2000)年 3月31日
第9代	 澤崎 寛	平成12(2000)年 4月 1日 から 平成14(2002)年 3月31日
第10代	 宮崎 眞行	平成14(2002)年 4月 1日 から 平成18(2006)年 3月31日
第11代	 松岡 真一	平成18(2006)年 4月 1日 から 平成21(2009)年 3月31日
第12代	 亀山 勇	平成21(2009)年 4月 1日 から 平成25(2013)年 3月31日
第13代	 永井 正之	平成25(2013)年 4月 1日 から 平成28(2016)年 3月31日
第14代	 中野 義幸	平成28(2016)年 4月 1日 から 現在



## 写真・資料提供協力者一覧

別府市立図書館

大分県立図書館

## 参考資料文献

順不同

別府町水道要誌【大正6(1917)年3月】

別府市水道小誌【昭和2(1927)年11月】

別府市上水道第二回拡張小誌【昭和22(1947)年3月】

別府市上水道概要【昭和26(1951)年4月】

別府市誌【昭和48(1973)年】

別府市誌【昭和60(1985)年】

別府市誌【平成15(2003)年】

日本水道史【昭和42(1967)年3月】

別府と占領軍【昭和56(1981)年】

別府の風土と人のあゆみ【平成29(2017)年】

## おわりに

別府市水道100周年を迎えるにあたり、水道100年の歴史を少しでも子供たちに知ってもらえたらと、また、文字数は極力減らして写真を多用して手軽に見ることができる本をと、この記念誌の編集に取り組みました。

本を作ること自体、経験があまりない私たちにとって、手探りの作業となりました。内容をどうするか、どのようにまとめるか、ページ数は、フォントはなどなど、一つひとつを確認していくしかありませんでした。また、写真についても、イメージに合うものがなかなか見つからず、何日もかかることがありました。

しかし、各方面の方々の御協力と御指導もあり、何とか印刷・発行まで辿り着くことができました。

何分素人で、本務の傍らでの作業であったことから、不備や不十分な点はあるかと思いますが、多くの年代の方に本市の水道事業に理解と関心を深めていただければ幸いです。

おわりに、本市水道を築き上げた先人達に改めて敬意を表するとともに、その努力と功績を絶やすことなく、これからの水道事業を市民の皆さまとともに作ってまいりたいと思います。

平成29(2017)年10月

別府市水道局

別府市水道100周年記念事業 実行委員会

### 別府市水道100年誌

発行／別府市水道局

〒874-0903

大分県別府市大字別府字野口原

3088番27

TEL0977-23-0361(代表)

企画・編集／別府市水道局

別府市水道100周年記念事業 実行委員会

印刷／株式会社 フタバ印刷社



# 別府市水道局

Beppu Municipal Waterworks Bureau

〒874-0903 別府市大字別府字野口原 3088 番 27

TEL 0977-23-0361

FAX 0977-21-6689



安全な水道を 次の100年へ

～届け、未来へのおくりもの～

別府市水道100周年記念事業